令和７年度使用

# 中学校用教科用図書研究資料

国　　語

令和６年７月

教科用図書南那珂採択地区協議会

1　教科目標の達成及び単元（題材）の構成・配列等

〔観点1〕　学習指導要領に示された教科の目標を達成するために、構成・配列等について、どのような工夫が見られるか。

| 発　行　者 | 概　　評 |
|---|---|
| 2　東　書 | (1) 単元の構成については、「言葉の力」(学習のポイント)を手掛かりにして「見通す」「学習活動」「振り返る」と学習を進め、学びを生かして「未来への扉」で示された題材について考えることができる工夫が見られる。<br>(2) 単元の配列については、各領域をつなぐ教材として「学びを支える言葉の力」を設定し、各領域の学習に活用できる工夫が見られる。また、学年末教材に、1年間で身に付けた力を使って自分や社会の課題について考える総まとめの教材が設けられ、学習で身に付けた力の定着と活用を促す工夫が見られる。 |
| 15　三省堂 | (1) 単元の構成については、「領域別教材一覧表」で1年間で身に付ける力が視覚的に示され、「本編」で必修の学習内容を扱い、「資料編」で学習を支える資料を示すことで、必要に応じて弾力的に取り扱うことが可能となる工夫が見られる。<br>(2) 単元の配列については、「読むこと」の学習において、「読み方を学ぼう」を設定し、学びを広げたり、深めたりする工夫が見られる。また、「読むこと」と「書くこと」の関連づけた単元も設けられ、領域をつなげることで、学習内容の理解と定着を促す工夫が見られる。 |
| 17　教　出 | (1) 単元の構成については、「言葉の地図」で年間の学習内容と身に付けたい力を示し、「学びナビ」で単元の学習内容を確認し、「みちしるべ」に沿って学びを進めることで、見通しをもって学習に取り組むことができる工夫が見られる。<br>(2) 単元の配列については、応用的な問題として「学びのチャレンジ」が配置され、自分の学びを確認できる工夫がなされている。また、「話すこと・聞くこと」「書くこと」では、教材末尾に学びを生活にどのように生かすことができるかを示すことで、学習内容の定着と活用を促す工夫が見られる。 |
| 38　光　村 | (1) 単元の構成については、「見通しをもつ」で学ぶ内容を確認し、「学びのカギ」を手掛かりに学習を進め、「言の葉ポケット」で学びを深め、「振り返る」で資質・能力の定着を図るという工夫が見られる。<br>(2) 単元の配列については、教材につながりをもたせ、資質・能力を活用して学びを深めたり、異なる領域で同じ話題を扱い、考えを深めたりする工夫がみられる。また、教材の後に設定した「学びのカギ」を手掛かりに、「学びへの扉」に沿って学習することで、学習内容の理解と定着を促す工夫が見られる。 |

2　内容や指導の充実

〔観点２〕　主体的・対話的で深い学びを通して、目指すべき資質・能力を確実に身に付けさせるために、どのような工夫が見られるか。

| 発　行　者 | 概　　評 |
|---|---|
| 2　東　書 | (1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、学習のポイントとして示された「言葉の力」を基に、読み深めたり、グループで話し合ったりする学習活動を設けることで、学びを深めながら学習を進められる工夫が見られる。<br>(2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、言葉や情報の関係、情報の整理について、各領域で繰り返し取り上げるとともに、「学びを支える言葉の力」を設け、取り立てて学習できるような工夫が見られる。<br>(3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、各教材に明示した「言葉の力」を手掛かりに思考する学習活動ができる工夫が見られる。また、資料編の「思考のヒント」、「要約の仕方」等を手掛かりにしながら表現することができる工夫が見られる。 |
| 15　三省堂 | (1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、「思考の方法」で問いをもつことの大切さに触れ、思考を手助けするチャートの一覧を示すことで、生徒が問いをもちながら学習活動を進めることができる工夫が見られる。<br>(2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、各教材の「語彙を豊かに」では、様々なテーマで教材と関連した語彙を取り上げることで、表現に生かせる語彙を増やし、語感を磨くため工夫が見られる。<br>(3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、学習の振り返りの段階で、習得した知識・技能を活用して、「自分の考え」を表現することを繰り返すことで、知識・技能と関連付けて自分の考えを形成することができる工夫が見られる。 |

| | |
|---|---|
| 17　教　出 | (1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、教材の冒頭で「学びナビ」が設定され、何を学ぶかを明確にすることで、生徒の主体的な学びを引き出したり、読みを深めるための思考のヒントを具体的に示したりするなどの工夫が見られる。<br>(2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、各教材に「言葉・情報」の学習を設けるとともに、「言葉の小窓」「言葉と社会」「文法の小窓」と解説編を活用して学習することで、多様な言葉と出会い、言葉への理解を深める工夫が見られる。<br>(3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、学習活動の流れと重点を示し、「話すこと・聞くこと」教材では学習のポイントを示したり、「書くこと」教材では学習活動における話合いの様子を示したりすることで、理解を深める工夫が見られる。 |
| 38　光　村 | (1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、教材の学習の流れが段階的に示された「学びへの扉」や学習のポイントがまとめられた「学びのカギ」が設けられ、生徒が見通しをもち、自らの学びを確認しながら学習に臨める工夫が見られる。<br>(2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、「言の葉ポケット」が設けられ、言葉の使い方の違いや関連する言葉などについて考えさせることで、言葉に関する興味・関心が深まる工夫が見られる。また、「語彙ブック」として別冊にまとめ、語彙の獲得・活用を促す工夫が見られる。<br>(3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、巻頭の「思考の地図」で思考の方法を示し、学習の際に目的に応じて使うことができる工夫が見られる。また、「情報整理や思考のレッスン」が設定され、情報の関連や吟味について、考えることができる工夫が見られる。 |

3　利便性の向上

〔観点３〕　学習効果や使用上の利便性を高めるとともに生徒にとって分かりやすいという視点から、どのような工夫が見られるか。

| 発　行　者 | 概　　評 |
|---|---|
| 2　東　書 | (1) 学習効果や使用上の利便性については、各教材に示した二次元コードにデジタルコンテンツの内容を分かりやすく示し、生徒が必要に応じてすぐに参照できる工夫が見られる。<br>(2) 生徒にとっての分かりやすさについては、巻末にある「言葉の力」一覧で３年間の学びを振り返えったりすることができるとともに、「デジタルコンテンツ一覧」には「家庭学習マーク」を示し、家庭で予習や復習に活用できる工夫が見られる。 |
| 15　三省堂 | (1) 学習効果や使用上の利便性については、巻末の「二次元コード参照先コンテンツ一覧」において、資料の種類を分かりやすく分類し、生徒が必要に応じて活用できる工夫が見られる。<br>(2) 生徒にとっての分かりやすさについては、「読み方を学ぼう」や「思考の方法」を一覧にし、使い方の例とともに図解で示すことで、様々な学習活動で活用しやすい工夫が見られる。 |
| 17　教　出 | (1) 学習効果や使用上の利便性については、二次元コードの「まなびリンク」において、学習に役立つ情報をウェブサイトで参照できるようにする工夫が見られる。<br>(2) 生徒にとっての分かりやすさについては、「学びナビ」一覧において、当該学年で学ぶ思考の方法を示すことで、身に付ける力が明確になり、学習活動に活用しやすい工夫が見られる。 |
| 38　光　村 | (1) 学習効果や使用上の利便性については、「ICT 活用のヒント」において、各領域での ICT の活用場面や参考となる資料を示し、効果的に ICT を活用することができる工夫が見られる。<br>(2) 生徒にとっての分かりやすさについては、「学びのカギ」一覧において、領域ごとに１年間の学習内容がまとめられ、生徒が身に付けた力を確認し、学習に生かせる工夫が見られる。 |

4　地域の願いや思い、生徒の実態等

〔観点４〕　家庭や地域と連携した学習の推進とともに、生徒の確実な基礎・基本の定着という観点から、どのような工夫が見られるか。

| 発　行　者 | 概　　評 |
|---|---|
| 2　東　書 | (1)　生徒の家庭学習を支援するために、理解を深めたり話したり書いたりする際の参考にしたり、一歩先の学習へと進んだりするなどの学習に役立つ「デジタルコンテンツ」が用いられ、家庭で予習や復習に活用できる工夫が見られる。<br>(2) 生徒の確実な基礎・基本の定着のために、「広がる言葉」では教材に関連した語彙が取り上げられている。また「言葉の力」では、事実と考えとの関係を捉え要旨をつかむ方法や根拠を提示し意見を述べる方法などが示されており、段階を踏んで学習するための工夫が見られる。 |
| 15　三省堂 | (1)　生徒の家庭学習を支援するために、思考力・判断力・表現力を伸ばす方法が示された「読み方を学ぼう」が設定され、図や解説等が分かりやすくまとめられており、解説用の「二次元コード」と合わせて家庭で予習や復習に活用できる工夫が見られる。<br>(2)　生徒の確実な基礎・基本の定着のために「語彙を豊かに」では、理解できる語句と使える語句の量を増やし、教材に関連した語感を磨くための語彙が取り上げられている。また九種類の「思考の方法」により、物事を多角的に捉える視点や効果的な発想の方法を示す工夫が見られる。 |
| 17　教　出 | (1)　生徒の家庭学習を支援するために、読むこと教材の補足資料や言語活動の参考資料、古文・漢文の解説などを見ることができる「まなびリンク」を用いて、家庭で予習や復習に活用できる工夫が見られる。<br>(2)　生徒の確実な基礎・基本の定着のために、考え方の方法を自分の表現に生かすことができるような工夫が示された「学びナビ」が設定されている。また、文章で表された情報を理解するための着眼点を示した「言葉・情報コーナー」が配置され、語彙を豊かにするための工夫が見られる。 |
| 38　光　村 | (1)　生徒の家庭学習を支援するために、漢字の読みや筆順・熟語などが確認できたり、文法などの練習問題を解くことができたりするなど言語事項に関する内容が充実した「二次元コード」を用いて、家庭で予習や復習に活用できる工夫が見られる。<br>(2)　生徒の確実な基礎・基本の定着のために、描写や言動・思考に関する適切な表現が語彙一覧表として「語彙ブック」にまとられている。また、学習のポイントや前後の学習とのつながりが確かめられるように「学びのカギ」が設定されるなどの工夫が見られる。 |

令和７年度使用

# 中学校用教科用図書研究資料

書　　写

令和６年７月

教科用図書南那珂採択地区協議会

1　教科目標の達成及び単元（題材）の構成・配列等

〔観点１〕　学習指導要領に示された教科の目標を達成するために、構成・配列等について、どのような工夫が見られるか。

| 発　行　者 | 概　　評 |
|---|---|
| 2　　東書 | (1) 単元の構成に関しては、「書写のかぎ」で示された学習のポイントをもとに「見つけよう」「確かめよう」「生かそう」の３段階で学習し、「振り返ろう」で説明させることで、学習内容を焦点化して学びを進められる工夫が見られる。<br>(2) 単元の配列については、１学年の導入で小学校書写の確認をさせて円滑な接続を図るとともに、各学年末に「書写テストに挑戦！」を設定し、中学校での学習内容の確実な定着を図ることができる工夫が見られる。 |
| 15　三省堂 | (1) 単元の構成に関しては、各教材に「書き方を学ぼう」を設けて学習内容を習得させ、単元末の「書いて身につけよう」において、学習内容を硬筆や日常生活に生かすことができる工夫が見られる。<br>(2) 単元の配列については、「本編」「資料編」の２部構成となっており、本編で学習内容を身に付け、資料編で生活の中で必要となる書式を確認し、伝統文化に親しむ資料にふれることを通して幅広い知識を得られるような工夫が見られる。 |
| 17　教　出 | (1) 単元の構成に関しては、教材が「目標」「考えよう」「生かそう」「振り返ろう」の４段階での学習手順となっており、各毛筆教材の導入「試し書き」において、硬筆で書かせることで毛筆と硬筆の学びをつなぐ工夫が見られる。<br>(2) 単元の配列については、毛筆学習の成果が確実に硬筆学習へつながるよう、各単元末に「学習を生かして書く」「学校生活に生かして書く」を設定することで、習得した書写の力を学習活動や日常生活に活用できるような工夫が見られる。 |
| 38　光　村 | (1) 単元の構成に関しては、「考えよう」「確かめよう」「生かそう」の３段階の学習過程となっており、「学びのカギ」において学習のポイントを具体的な説明やイラスト等で視覚的に示し、学習内容を確かめながら学習できる工夫が見られる。<br>(2) 単元の配列については、国語の学習と関連した教材を各学年に提示した「国語」を設定するとともに、「コラム」の中で学校生活や日常生活に書写学習を生かすヒントや題材を取り上げることで、習得した力の活用を促す工夫が見られる。 |

2　内容や指導の充実

〔観点２〕　主体的・対話的で深い学びを通して、目指すべき資質・能力を確実に身に付けさせるために、どのような工夫が見られるか。

| 発　行　者 | 概　　評 |
|---|---|
| 2　　東書 | (1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、「生活に広げよう」では、日常生活において文字を手書きする具体的な場面を通して、書写学習で身に付けた力の生かし方について話し合う活動を設定する工夫が見られる。<br>(2) 生きて働く「知識・技能」を確実に習得させるために、各単元の「見つけよう」で「書写のかぎ」にある用語を使って説明させる活動や「指でなぞって考えよう」の用語を意識した活動を設定する工夫が見られる。 |
| 15　三省堂 | (1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、学年末教材の「やってみよう」での新聞や情報誌の制作において、これまでの学習を生かした作品を作り上げるためのグループ活動を設定する工夫が見られる。<br>(2) 生きて働く「知識・技能」を確実に習得させるために、巻末の折り込みに、「書き方を学ぼう一覧」を設け、３年間で身に付ける書写の力が全て確認できるようにするための工夫が見られる。 |
| 17　教　出 | (1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、「学習の進め方」の「考えよう」において、課題解決的な学習や話合い活動を通した学び方を示し、自らの課題意識や話合いの活性化を促す工夫が見られる。<br>(2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、各教材の冒頭に「試し書き」、学習末に「まとめ書き」を設定し、学習を生かして書いた文字とはじめの文字を比べる学習活動を取り入れる工夫が見られる。 |
| 38　光　村 | (1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、各毛筆教材の「考えよう」において自分で課題を発見させたり、「コラム」において、文字に関する様々な問いを投げかけ、話し合う活動を設定したりする工夫が見られる。<br>(2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、３年生の単元末に「三年間のまとめ」を設け、３年間の学習内容を見開きで確認し、自分の課題を確かめながら毛筆に取り組む教材を設定する工夫が見られる。 |

3　利便性の向上

〔観点３〕　学習効果や使用上の利便性を高めるとともに生徒にとって分かりやすいという視点から、どのような工夫が見られるか。

| 発　行　者 | 概　　評 |
|---|---|
| 2　東書 | (1) 学習効果や使用上の利便性については、ページ右上に学習内容を端的に表記することで、生徒が学習内容を意識して、学習に取り組める工夫が見られる。<br>(2) 生徒にとっての分かりやすさについては、説明の文言を文節で改行したり、小学校で学習していない漢字には初出箇所にルビを付けたりすることで、全ての生徒への支援となる工夫が見られる。 |
| 15　三省堂 | (1) 学習効果や使用上の利便性については、巻末の「二次元コード一覧表」において教材名ごとにコンテンツの内容や種類が掲載され、必要な情報が一目でわかる工夫が見られる。<br>(2) 生徒にとっての分かりやすさについては、学年や学習内容ごとにアイコンや色を変えたり、区切り線や囲い線をつけたりするなど、全ての生徒が見やすく学びやすいレイアウトとなるよう工夫が見られる。 |
| 17　教　出 | (1) 学習効果や使用上の利便性については、二次元コード「まなびリンク」から学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる工夫が見られる。<br>(2) 生徒にとっての分かりやすさについては、淡い色使いをベースにAB判で作られており、大きな紙面で作品等を見ることができ、文字や作品により注目して学習することができるという工夫が見られる。 |
| 38　光　村 | (1) 学習効果や使用上の利便性については、取り外して使用できる「書写ブック」により、学びを硬筆に生かすとともに、他教科の学習にも活用することができる工夫が見られる。<br>(2) 生徒にとっての分かりやすさについては、行書の特徴をアイコンで示したり、毛筆手本の半紙の右端に朱墨・薄墨で点画を示したりして、筆使いのポイントを理解しやすくする工夫が見られる。 |

4　地域の願いや思い、生徒の実態等

〔観点４〕　家庭や地域と連携した学習の推進とともに、生徒の確実な基礎・基本の定着という観点から、どのような工夫が見られるか。

| 発　行　者 | 概　　評 |
|---|---|
| 2　東　書 | (1)　生徒の家庭学習を支援するために、動画を見ながら字形や筆遣いを確認できる「デジタルコンテンツ」を用いて、家庭で予習や復習に活用できる工夫が見られる。<br>(2)　生徒の確実な基礎・基本の定着のために、「書写のかぎ」では学習のポイントが言葉でまとめてあり、実際に書いて確かめたり生かして他の文字を書いたりできる工夫が見られる。 |
| 15　三省堂 | (1)　生徒の家庭学習を支援するために、字形や筆遣いについて解説している「デジタルコンテンツ」を用いて、家庭で予習や復習に活用できる工夫が見られる。<br>(2)　生徒の確実な基礎・基本の定着のために、書き方のポイントをつかみ、それが他の文字ではどこに使われているか説明されている「書き方を学ぼう」が設定されているなどの工夫が見られる。 |
| 17　教　出 | (1)　生徒の家庭学習を支援するために、学習したことを記録したり振り返ったりすることのできる「まなびリンク」を用いて、家庭で予習や復習に活用できる工夫が見られる。<br>(2)　生徒の確実な基礎・基本の定着のために、書くときのポイントをまとめた「書くときの留意点」やその単元で学習したことを確認できる「振り返ろう」が設定されているなどの工夫が見られる。 |
| 38　光　村 | (1)　生徒の家庭学習を支援するために、字形や筆遣いを解説している「デジタルコンテンツ」や、学習したことを確認できる「書写ブック」を用いて家庭で予習や復習に活用できる工夫が見られる。<br>(2)　生徒の確実な基礎・基本の定着のために、筆遣いや字形、点画や筆順等のポイントをまとめた「学びのかぎ」が設定されているなどの工夫が見られる。 |

令和７年度使用

# 中学校用教科用図書研究資料

社会（地理的分野）

令和６年７月

教科用図書南那珂採択地区協議会

1　教科目標の達成及び教材の構成・配列等

〔観点1〕　学習指導要領に示された教科の目標を達成するために、構成・配列等について、どのような工夫が見られるか。

| 発　行　者 | 概　　評 |
|---|---|
| 2　東　書 | (1) 社会科地理的分野の目標を達成するために、章の構成は、課題をつかむ、課題を追究する、課題を解決するという流れで構造化され、単元を貫く探究課題を解決していく学習活動ができるような工夫が見られる。<br>(2) 見開きで1単位時間ごとに学習課題が設定され、地理的な見方を働かせるための「地理のミカタ」コーナーなどを基に追究し、最後に「チェック＆トライ」コーナーに取り組むことで学習内容の定着を図る構成・配列の工夫が見られる。 |
| 17　教　出 | (1) 社会科地理的分野の目標を達成するために、章・節の構成は、とびら・導入ページ、本時ページ、学習のまとめと表現ページになっており、見通しや振り返りの学習活動に取り組みやすくなるような工夫が見られる。<br>(2) 見開きで1単位時間ごとに学習課題が設定され、資料を丁寧に読みながら考察する「THINK！」コーナーなどを基に追究し、最後に「確認！」「表現！」コーナーに取り組むことで学習内容を深める構成・配列の工夫が見られる。 |
| 46　帝　国 | (1) 社会科地理的分野の目標を達成するために、章・節の構成は、単元の見通しのページ、毎時の学びのページ、単元の振り返りのページとなっており、単元を通した学習活動に取り組みやすくなるような工夫が見られる。<br>(2) 見開きで1単位時間ごとに学習課題が設定され「地理プラス」などを基に追究し、最後に「確認しよう」や「説明しよう」コーナーに取り組むことで、知識の確実な習得や言語活動につなげる構成・配列の工夫が見られる。 |
| 116　日　文 | (1) 社会科地理的分野の目標を達成するために、章・節の構成は、学習のはじめに、問いの設定、本文、まとめとふり返りのページとなっており、学習の見通しと振り返りができるような工夫が見られる。<br>(2) 見開きで1単位時間ごとに学習課題が設定され、その手がかりとなる「見方・考え方」やコラム「地理＋α」を基に追究し、最後に、「確認」「表現」コーナーに取り組むことで、学習内容の理解を確かめる構成・配列の工夫が見られる。 |

２　内容や指導の充実

〔観点２〕　主体的・対話的で深い学びを通して、目指すべき資質・能力を確実に身に付けさせるために、どのような工夫が見られるか。

| 発　行　者 | 概　　評 |
|---|---|
| ２　東　書 | (1) 主体的・対話的で深い学びを展開することができるような、生徒が問題意識をもちやすい写真や地図が単元はじめのページにあり、生徒が学習意欲を高め、課題に向き合い、主体的に学習をすすめることができるような工夫が見られる。<br>(2) 生きて働く「知識・技能」を習得できるような、単元ごとに「まとめの活動」があり、単元の学習内容を振り返り、知識・技能を確実に定着させ今後の学習に生かせるような工夫が見られる。<br>(3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成できるよう、単元の終わりに「探究課題を解決しよう」が設定してあり、地域のこれからについて、思考・判断・表現し課題を解決する力を高めるような工夫が見られる。<br>(4) 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養できるような、持続可能な社会に向けて考える「未来にアクセス」があり、現代社会で解決すべき諸問題を意識付けできる工夫が見られる。 |
| 17　教　出 | (1) 主体的・対話的で深い学びを展開することができるような、単元ごとに「学習のまとめと表現」があり、思考ツールを用いて、生徒が地域の諸課題を解決するための手段や工夫を考え、主体的な学びができるような工夫が見られる。<br>(2) 生きて働く「知識・技能」を習得できるような、「地理の技」が設定され、生徒に身につけさせたい地図やグラフの扱いなど、生徒の日常生活で生かせる技能を確実に習得できるような工夫が見られる。<br>(3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成できるよう、「クロスロード」が設定され、学習内容を活かして、生徒が地域の課題解決に向けて思考・判断・表現できるような工夫が見られる。<br>(4) 学びを人生や社会に生かそうとする、「学びに向かう力・人間性等」を涵養できるような、巻頭ページにSDGsの説明があり、各ページに関係のカードを提示し、学習内容と社会問題の解決を関連付ける工夫が見られる。 |

| | |
|---|---|
| 46　帝　国 | (1) 主体的・対話的で深い学びを展開することができるような、単元ごとに「写真で眺める」が設定され、写真や地図などの資料を見て、地域の様子をつかみ、興味・関心を高めることで主体的な学びができるような工夫が見られる。<br>(2) 生きて働く「知識・技能」を習得できるような単元ごとに「学習を振り返ろう」のページがあり、地図を活用しながら学習内容を習得したり、思考ツールや図を活用し学習内容を習得したりする工夫が見られる。<br>(3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」を育成できるよう、「アクティブ地理」が設定され、地域の課題について、習得した知識や技能を使って実践的に考えていく学習を通して、思考力を高めるような工夫が見られる。<br>(4) 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養できるような、巻頭のページ「よりよい社会を目指して」があり、学習全体を通して、持続可能な社会の実現を意識して生徒がよりよい未来を構想できる工夫が見られる。 |
| 116　日　文 | (1) 主体的・対話的で深い学びを展開することができるような、各小単元に「議論してみよう」がある。小単元ごとに獲得した知識を生かして、議論できる問いが設定してあり、生徒が主体的に学ぶことができるような工夫が見られる。<br>(2) 生きて働く「知識・技能」を習得できるような、新旧の街並みが比較できる写真資料や、新旧の変容が分かるグラフなどが提示され、生徒が地域の変容やその経緯をつかむことができるような工夫が見られる。<br>(3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成できるよう、単元ごとに「自分の考えをまとめよう」が設定してあり、既習事項を整理し、地域の課題について思考・判断・表現することができるような工夫が見られる。<br>(4) 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養できるような、「持続可能な地域をめざして」があり、よりよい社会づくりの実現に取り組もうとする態度を育成するような工夫が見られる。 |

3　利便性の向上

〔観点３〕　学習効果や使用上の利便性を高めるとともに生徒にとって分かりやすいという視点から、どのような工夫が見られるか。

| 発　行　者 | 概　　評 |
|---|---|
| 2　東　書 | (1) 学習効果や使用上の利便性については、「QRコンテンツ」が各所に掲載されており、動画や各種統計資料、デジタル地球儀、クイズなどのコンテンツを活用して生徒の理解を深める工夫が見られる。<br>(2) 生徒にとっての分かりやすさについては、導入で印象的な写真を掲載し、興味・関心を高めさせたり、章や節ごとに単元を貫く問いについて独立したページを設けて、学習内容の見通しをもたせたりする工夫が見られる。 |
| 17　教　出 | (1) 学習効果や使用上の利便性については、「まなびリンク」が各所に掲載されており、動画や各種統計資料、外部サイトへのリンクなどのコンテンツを活用して生徒の関心や意欲を高め、理解や習得を促す工夫が見られる。<br>(2) 生徒にとっての分かりやすさについては「LOOK」「THINK」等の見出しを設け、学習の視点を提示したり、章や節のまとめにおいて様々な種類の思考ツールを多用することで学習内容の可視化を図ったりする工夫が見られる。 |
| 46　帝　国 | (1) 学習効果や使用上の利便性については、「QRコンテンツ」が各所に掲載されており、図解アニメーションや用語解説、小学校の学習内容へのリンクなどのコンテンツを活用して生徒の個別最適な学びを支援する工夫が見られる。<br>(2) 生徒にとっての分かりやすさについては、大きく鮮やかな写真やイラストを多用し、興味・関心を高めさせたり章や節のまとめにおいて思考ツールを活用することで学習内容の可視化を図ったりする工夫が見られる。 |
| 116　日　文 | (1) 学習効果や使用上の利便性については、「教科書QRコンテンツ」が各所に掲載されており、動画や学習履歴記録シート確認小テストなどのコンテンツを活用して生徒の自学自習を支援する工夫が見られる。<br>(2) 生徒にとっての分かりやすさについては、章や節ごとに単元を貫く問いについて独立したページを設けて、学習の見通しをもたせたり、ポートフォリオを活用することで思考の整理をさせやすくしたりする工夫が見られる。 |

4　地域の願いや思い、生徒の実態等

〔観点４〕　家庭や地域と連携した学習の推進とともに、生徒の確実な基礎・基本の定着という観点から、どのような工夫が見られるか。

| 発　行　者 | 概　　評 |
|---|---|
| 2　東　書 | (1) 生徒の家庭学習を支援するために、自ら学習内容の見通しを促す「導入クリップ」や補充・深化することのできる「チェック＆トライ」が設定されるなどの工夫が見られる。<br>　地域と連携した学習内容として、写真やグラフが設定されており、生徒が地域住民として「プロ野球キャンプ」に興味をもって学ぶことを通して地域への愛着をはぐくむための工夫が見られる。<br>(2) 生徒の確実な基礎・基本の定着のために、生徒が特につまずきやすい事項を補足説明するために「もっと解説」のコーナーが配置されたり、章や節の終わりにある「確かめよう」で基礎・基本の知識の習熟が図られたりできるように工夫されている。 |
| 17　教　出 | (1) 生徒の家庭学習を支援するために、自らの自発的な学習を促す「まなびリンク」や技能を習得することのできる「地理の技」が設定されるなどの工夫が見られる。<br>　地域と連携した学習内容として、写真やグラフが設定されており、生徒が地域住民として「地理の窓」を学ぶことを通して地域への愛着をはぐくむための工夫が見られる。<br>(2) 生徒の確実な基礎・基本の定着のために、難解な用語や補足説明が必要な事項には、側注や巻末の用語解説が配置されたり、章や節の終わりにある「学習したことを確認しよう」で基礎・基本の知識の習熟が図られたりできるように工夫されている。 |
| 46　帝　国 | (1) 生徒の家庭学習を支援するために、自らの自発的な学習を促す「QR コンテンツ」や地域の課題を深く学ぶことのできる特設ページが設定されるなどの工夫が見られる。<br>　地域と連携した学習内容として、写真やグラフが設定されており、生徒が地域住民として「宮崎地頭鶏」のブランド化に興味をもって学ぶことを通して地域への愛着をはぐくむための工夫が見られる。<br>(2) 生徒の確実な基礎・基本の定着のために、重要な概念やわかりにくい用語について側注欄に「解説」が配置されたり、章や節の終わりにある「章（節）の振り返り」で基礎・基本の知識の習熟が図られたりできるように工夫されている。 |
| 116 日　文 | (1) 生徒の家庭学習を支援するために、自ら学ぶ意欲を促す「イントロダクションムービー」や学習の定着を図ることのできる確認小テストが設定されるなどの工夫が見られる。<br>　地域と連携した学習内容として、写真やグラフが設定されており、生徒が地域住民として「プロ野球キャンプ」を学ぶことを通し |

| | |
|---|---|
| | て地域への愛着をはぐくむための工夫が見られる。<br>(2) 生徒の確実な基礎・基本の定着のために、巻末の「用語解説」や学習課題と対応した「確認・表現」のコーナーが配置されたり、章や節の終わりにある「自分の考えをまとめるために必要な知識を確認しよう」で基礎・基本の知識の習熟が図られたりできるように工夫されている。 |

令和７年度使用

# 中学校用教科用図書研究資料

社会（歴史的分野）

令和６年７月

教科用図書南那珂採択地区協議会

1　教科目標の達成及び単元（題材）の構成・配列等

〔観点1〕　学習指導要領に示された教科の目標を達成するために、構成・配列等について、どのような工夫が見られるか。

| 発　行　者 | 概　　評 |
|---|---|
| 2　東　書 | (1) 社会科歴史的分野の目標を達成するために、章・節の構成は、課題をつかむ、課題を追究する、課題を解決するという流れで構成されており、学習の流れを可視化し、課題を解決する力を育てることができるような工夫が見られる。<br>(2) 見開き1単位時間ごとに学習課題が設定され、歴史的な見方・考え方の手がかりになるコーナーなどを基に追究し、最後に「チェック＆トライ」コーナーに取り組むことで1時間の学習を振り返る構成・配列の工夫が見られる。 |
| 17　教　出 | (1) 社会科歴史的分野の目標を達成するために、章・節の構成は、とびら・導入ページ、本文・特設ページ、学習のまとめと表現ページとなっており、「問い」を軸にして課題解決的に追究していくような工夫が見られる。<br>(2) 見開き1単位時間ごとに学習課題が設定され、資料をきっかけとした深い学びのための「THINK！」コーナーなどを基に追究し、最後に「確認！」「表現！」コーナーに取り組むことで学習内容を深める構成・配列の工夫が見られる。 |
| 46　帝　国 | (1) 社会科歴史的分野の目標を達成するために、章・節の構成は、単元の見通しページ、毎時の学びページ、単元(章)の振り返りページとなっており、学習の見通しと振り返りがしやすいような工夫が見られる。<br>(2) 見開き1単位時間ごとに学習課題が設定され、資料活用アイコン等を基に追究し、最後に「確認しよう」「説明しよう」コーナーに取り組むことで、知識の確実な定着や表現力等の育成を促す構成・配列の工夫が見られる。 |
| 81　山　川 | (1) 社会科歴史的分野の目標を達成するために、章の構成は、扉「日本史と世界史の帯年表」のページ、本文ページ、まとめのページとなっており、世界史を含めた歴史全体の流れをつかむことができるような工夫が見られる。<br>(2) 見開き1単位時間ごとに学習課題が設定され、因果関係を重視した本文の記述や豊富な発問を基に追究し、最後に「ステップアップ」コーナーに取り組むことで深い学びを促す構成・配列の工夫が見られる。 |

| | |
|---|---|
| 116　日　文 | (1) 社会科歴史的分野の目標を達成するために、章・節の構成は、学習のはじめにページ、本文ページ・まとめとふり返りのページとなっており、生徒が問いを立て、学習の見通しと振り返りができるような工夫が見られる。<br>(2) 見開き1単位時間ごとに学習課題が設定され、手がかりとなる「見方・考え方」コーナーなどを基に追究し、最後に「確認」「表現」コーナーに取り組むことで学習内容の理解を確かめる構成・配列の工夫が見られる。 |
| 225　自由社 | (1) 社会科歴史的分野の目標を達成するために、章の構成は、導入ページ、本文ページ、章末に調べ学習・復習問題・時代の特徴を考える・対話とまとめの図のページとなっており、章全体を構造的に関連付けて構成するような工夫が見られる。<br>(2) 見開き1単元時間ごとに学習課題が設定され、キャラクターのセリフにより示唆する学習のポイントを活用して追究し、最後に「チャレンジ」コーナーに取り組むことで簡単な知識の整理ができる構成・配列の工夫が見られる。 |
| 236　令　書 | (1) 社会科歴史的分野の目標を達成するために、章の構成は、本文ページ・特設ページ（コラム）、章のまとめページとなっており、我が国の歴史の特色や歴史の連続性をより実感できるような工夫が見られる。<br>(2) 縦書きで構成されており、小見出しごとに学習課題が設定され、本文の理解を助ける写真・図・コラムなどで追究し、最後に「まとめ」コーナーに取り組むことで学習内容の理解を確かめる構成・配列の工夫が見られる。 |

2　内容や指導の充実

〔観点２〕　主体的・対話的で深い学びを通して、目指すべき資質・能力を確実に身に付けさせるために、どのような工夫が見られるか。

| 発　行　者 | 概　　評 |
|---|---|
| 2　東　書 | (1) 主体的・対話的で深い学びを展開することができるように、対話を通して深い学びを実現するための活動例を、本文やまとめのページに配置し、本文での学習内容の理解を確実にし、話合いなどの対話的な活動を促すための工夫が見られる。<br>(2) 生きて働く「知識・技能」を習得できるように、紙面を導入の資料→学習課題→本文→チェック＆トライの流れで構造化したり、歴史の学習に必要な技能を身に付ける「スキル・アップ」を設けたりするなどの工夫が見られる。<br>(3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成できるよう、学習内容を「ウェビング」などの「思考ツール」を活用して整理したり、グループ学習「みんなでチャレンジ」コーナーを設けたりするなどの工夫が見られる。<br>(4) 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養できるように、現代的な５つの課題における克服のための取り組みを扱い、持続可能な社会の形成や課題解決のための意識と態度を育てるための工夫が見られる。 |
| 17　教　出 | (1) 主体的・対話的で深い学びを展開することができるように、第１章２節では、対話的な学びの進め方の例を具体的に掲載し、その後の学習において「対話的な学び」を自ら進んで展開できるような工夫が見られる。<br>(2) 生きて働く「知識・技能」を習得できるように、各時間の最後に学習を振り返る「確認」コーナーを設けたり、適宜設けられた資料内容を読み取る「歴史の技」コーナーを設けたりするなどの工夫が見られる。<br>(3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成できるよう、学習したことを活用して表現する「表現！」や各章の最後に学習を振り返る「学習のまとめと表現」ページを設定するなどの工夫が見られる。<br>(4) 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養できるように、巻末で既習内容を活かして、現代社会の課題について、SGDs の視点から問い・調査・考察・発表・交流する学習活動を紹介するなどの工夫が見られる。 |

| | |
|---|---|
| 46　帝　国 | (1) 主体的・対話的で深い学びを展開することができるように、各章の「章扉」や「タイムトラベル」を活用し、単元全体の学習の見通しを立てて学びを進めていくことで、主体的な学習を促すなどの工夫が見られる。<br>(2) 生きて働く「知識・技能」を習得できるように、見開き２ページが構造化された紙面構成になっていたり、基礎的な技能を身に付けるための「技能をみがく」を設けたりするなどの工夫が見られる。<br>(3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成できるよう、巻頭「考えを整理する方法～思考ツールを活用しよう～」で、学習で有用な思考ツールを紹介したり、それを用いる場面を多く設定したりするなどの工夫が見られる。<br>(4) 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養できるように、最終単元では、歴史的な背景を踏まえた、社会参画への態度を養うための現代社会の諸課題について解決策を考える活動を行うなどの工夫が見られる。 |
| 81　山　川 | (1) 主体的・対話的で深い学びを展開することができるように、「歴史を考えよう」のコーナー、各章のまとめなどで、さまざまなパターンの豊富な発問を通して、生徒の主体的で対話的な学習活動を促すための工夫が見られる。<br>(2) 生きて働く「知識・技能」を習得できるように、難しい用語と同ページに用語解説のコーナーを設けたり、因果関係を説明するために関係のあるコラムを設けたりするなどの工夫が見られる。<br>(3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成できるよう、各単元の学習課題、ステップアップの課題、図版に付した発問など、各所に設けた発問を自ら考え、判断する力を身に付けられるような工夫が見られる。<br>(4) 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養できるように、各時代の展開や、文化財保護の取り組みを理解する「地域からのアプローチ」が設けられており、歴史を学ぶことの意味を考えさせるなどの工夫が見られる。 |

| | |
|---|---|
| 116　日　文 | (1) 主体的・対話的で深い学びを展開することができるように、教科書の「編（章）の問い」や「節の問い」に対する予想や学習後の考えを記録するワークシートを設け、学びの成果や自己の成長を振り返り、学習内容を深める工夫が見られる。<br>(2) 生きて働く「知識・技能」を習得できるように、1授業時間を見開き2ページとし、「何を学ぶのか」を学習課題で明確に示し、「確認・表現」コーナーで、学習を確かめるための問いを設けるなどの工夫が見られる。<br>(3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成できるよう、各章末に「まとめとふり返り」を設け、時代の特色をまとめさせたり、考察する際に活用できる思考ツールを随所に設けたりするなどの工夫が見られる。<br>(4) 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養できるように、よりよい未来を考えるに当たって、先人がどのように課題を解決しようと取り組んできたのかを学ぶコラムや特設ページを設けるなどの工夫が見られる。 |
| 225　自由社 | (1) 主体的・対話的で深い学びを展開することができるように、大型のコラム記事など、生徒が興味のある歴史的事象を自らさらに深く学び考えられるような素材を随所に配置するなどの工夫が見られる。<br>(2) 生きて働く「知識・技能」を習得できるように、簡単な知識の整理をするために単元ごとに「チャレンジ」というコーナーを置き、章末に復習問題のページを配置して基礎的な用語や知識の定着を図るなどの工夫が見られる。<br>(3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成できるよう、各章の章末において、生徒の探究をうながす課題学習のページや時代の特徴を考えさせるページを設定するなどの工夫が見られる。<br>(4) 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養できるように、「歴史用語ミニ辞典」を生徒がつくるという課題など、学んだことを自分で構造化するレッスンの場を設けるなどの工夫が見られる。 |

| | |
|---|---|
| 236 令　書 | (1) 主体的・対話的で深い学びを展開することができるように、グループでの調べ学習の手順や方法、ディベートの行い方などまとめ学習における対話が広がるような学習方法の紹介をするなどの工夫が見られる。<br>(2) 生きて働く「知識・技能」を習得できるように、巻末に解説付きの大きな写真資料を豊富に配置したり、時代ごとの各国の変遷を理解させる世界地図を掲載したりするなどの工夫が見られる。<br>(3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成できるよう、各時代の章末において、まとめを行うコーナーを設け、その中で政治・文化・外交・産業の４つの観点でまとめさせるなどの工夫が見られる。<br>(4) 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養できるように、我が国の光と影の両面を学ぶことで、現代と違うもの、変わらぬものを比較する力を養うなどの工夫が見られる。 |

3　利便性の向上

〔観点３〕　学習効果や使用上の利便性を高めるとともに生徒にとって分かりやすいという視点から、どのような工夫が見られるか。

| 発　行　者 | 概　　評 |
|---|---|
| 2　東　書 | (1) 学習効果や使用上の利便性については、各ページの定位置にある「二次元コード」から学習段階に応じ、「ワークシート」や「活動ツール」などのデジタルコンテンツを活用することができ、生徒の学びを深める工夫が見られる。<br>(2) 生徒にとっての分かりやすさについては、各ページ下の「チェック＆トライ」で１時間の学習をふり返った後、数ページ先の「探究のステップ」のページを示すなどして、各章や節のまとめと、そのまとめを基にした探究課題の解決が効率的に行える工夫が見られる。 |
| 17　教　出 | (1) 学習効果や使用上の利便性については、各章の導入や振り返り、「歴史の技」にある「まなびリンク」から、学習場面に応じた、動画やクイズ、リンクを見ることができ、生徒の関心・意欲を高め、理解や習得を促す工夫が見られる。<br>(2) 生徒にとっての分かりやすさについては、見開き最後の「確認！表現！」で１時間の学びを振り返り、さらに、各章の学習を振り返る「学習のまとめと表現」では、３段階の構成で、基礎・基本の定着とともに、次の章への準備を効率的に行える工夫が見られる。 |
| 46　帝　国 | (1) 学習効果や使用上の利便性については、各章・節の始まりや振り返りにある「二次元コード」から、学習内容の定着や生徒の調べ学習を支える多彩なコンテンツを活用して、生徒の個別最適な学びを支援する工夫が見られる。<br>(2) 生徒にとっての分かりやすさについては、見開き最後の「確認しよう・説明しよう」で１時間の学びの振り返りができる。さらに、各章末尾の「学習を振り返ろう」で各章・節の問いについて考えさせ、各時代の特色の考察が効率的に行える工夫が見られる。 |
| 81　山　川 | (1) 学習効果や使用上の利便性については、「二次元コード」から、拡大した掲載資料や動画を見ることで、各ページに設けられた発問に対する思考のヒントを与え、理解をより深められる工夫が見られる。<br>(2) 生徒にとっての分かりやすさについては、見開き最後の「ステップアップ」で、１時間の学習内容を踏まえた発展的な学びにつなげている。章末の「まとめ」では、様々なパターンの発問を通して、生徒の主体的・対話的な活動を促す工夫が見られる。 |

| | |
|---|---|
| 116　日　文 | (1) 学習効果や使用上の利便性については、各ページの定位置にある「二次元コード」から、多彩なコンテンツを見ることができ、中でも、「ポートフォリオ」は系統的に配置し、生徒の個別最適な学びに繋がる工夫が見られる。<br>(2) 生徒にとっての分かりやすさについては、見開き最後の「確認・表現」で、1時間の学習をふり返ることができる。さらに、編末の「まとめとふり返り」では、習得した知識の確認のあと、各編・節の問いに答えることで、時代の特色を考えさせる工夫が見られる。 |
| 225　自由社 | (1) 学習効果や使用上の利便性については、見開きのページの概略的な記述内容を、さらに深める大型のコラム「もっと知りたい」を配置し、生徒の興味・関心を高めることで、深い学びにつなげる工夫が見られる。<br>(2) 生徒にとっての分かりやすさについては、見開き最後の「チャレンジ」で、1時間の知識の整理ができる。さらに、章末に「調べ学習⇒復習問題⇒時代の特徴を考える⇒対話とまとめ図」のページを設け、段階を追って時代を大観させる工夫が見られる。 |
| 236　令　書 | (1) 学習効果や使用上の利便性については、本文を縦書きにするとともに歴史の転換点を独自に設定したり、扉絵をイラストで表したりするなど、読書するような楽しみを見出しながら、興味・関心を高める工夫が見られる。<br>(2) 生徒にとっての分かりやすさについては、本文の時代の転換時には「先土器時代以前」や「平成時代」という見出しを設けている。さらに、各章末に「まとめ学習」を配置し、政治・文化・外交・産業別に時代の特色をまとめ、全体像を掴ませる工夫が見られる。 |

4　地域の願いや思い、生徒の実態等

〔観点４〕　家庭や地域と連携した学習の推進とともに、生徒の確実な基礎・基本の定着という観点から、どのような工夫が見られるか。

| 発　行　者 | 概　　評 |
|---|---|
| 2　東 書 | (1) 生徒の家庭学習を支援するために、節の問いを解決するための「確かめよう、ふり返ろう」コーナーや、学習した時代を年表で振り返ることのできる「まとめの活動」コーナーが設定される等の工夫が見られる。<br>　地域と連携した学習内容として、「地域の歴史を調べよう」や「もっと知りたい」が設定されており、生徒が地域とつながりのある事象を学ぶことを通して地域への愛着をはぐくむための工夫が見られる。<br>(2) 生徒の確実な基礎・基本の定着のために、各見開きページごとに「チェック＆トライ」、習熟を図るために、「みんなでチャレンジ」のコーナーや「活用」のコーナー、さらに、各章の学習を振り返る「まとめの活動」では、「深めよう」のコーナーで探究課題が設定され、効率的な学習ができるように工夫されている。 |
| 17　教 出 | (1) 生徒の家庭学習を支援するために、「学習のまとめと表現」では、これまで学習してきたことを振り返る「HOP」コーナーや QR コードの読み取りによりクイズ形式で学習することのできる「まなびリンク」が設定される等の工夫が見られる。<br>　地域と連携した学習内容として、「身近な地域の歴史を調べよう」や「歴史を探ろう」が設定されており、生徒が地域とつながりのある事象を学ぶことを通して地域への愛着をはぐくむための工夫が見られる。<br>(2) 生徒の確実な基礎・基本の定着のために、各見開きページごとに「確認＆表現」、習熟を図るために「THINK」のコーナー、節の終わりごとに「〇節をとらえる」、さらに、各章の学習を振り返る「学習のまとめと表現」では「STEP」や「JUMP」が設定され、効率的な学習ができるように工夫されている。 |
| 46　帝 国 | (1) 生徒の家庭学習を支援するために、写真や図が大きく示されているとともに、ＱＲコンテンツによって、参考資料を見ることができたり振り返りができるワークシートが表示されたりする等の工夫が見られる。<br>　地域と連携した学習内容として、「未来に向けて」のコラムを設定することで歴史・地理・公民の分野間連携ができ、自分たちの地域や生活につなげられるような工夫が見られる。<br>(2) 生徒の確実な基礎・基本の定着のために、「章の振り返り」が設定され、学習事項の確認ができるようになっていたり、自分の考えをもち対話を通して習熟が図られたりできるような工夫が見られる。 |

| | |
|---|---|
| 81　山　川 | (1) 生徒の家庭学習を支援するために、自ら学習内容のより深い理解を促す「ICTを利用した学び」のコーナーや生徒が見通しをもって学習に取り組むことのできる学習課題が設定される等の工夫が見られる。<br>　地域と連携した学習内容として、「地域からのアプローチ」や「身近な地域を調べよう」のコーナーが設定されており、生徒が地域の歴史や伝統文化に焦点をあてて調べ学習を行うことを通して地域への愛着をはぐくむための工夫が見られる。<br>(2) 生徒の確実な基礎・基本の定着のために、各章のまとめにさまざまなパターンの豊富な発問が配置され、生徒の主体的・対話的な学習活動で習熟を図ることができるような工夫が見られる。 |
| 116 日　文 | (1) 生徒の家庭学習を支援するために、写真や図が大きく示されているとともに、ＱＲコンテンツによって、動画を見ることができたり確認小テストが表示されたりする等の工夫が見られる。<br>　地域と連携した学習内容として、地域の事例のコラムを多く提示することで、自分たちの地域や生活につなげて考えることができるような工夫が見られる。<br>(2) 生徒の確実な基礎・基本の定着のために、「編のまとめとふり返り」が設定され、学習事項の確認ができるようになっていたり、自分の考えをもち対話を通して習熟が図られたりできるように工夫されている。 |
| 225 自由社 | (1) 生徒の家庭学習を支援するために、写真や図が大きく示されているとともに、コラムが多く、生徒が興味関心をもって歴史学習に取り組んでいける等の工夫が見られる。<br>　地域と連携した学習内容として、名前の由来等、独自の視点で歴史を身近なものとして捉え、今の自分たちの生活につながっていることを感じられるような工夫が見られる。<br>(2) 生徒の確実な基礎・基本の定着のために、章の終わりに「復習問題のページ」が設定され、学習事項の確認ができるようになっていたり、「ひとこと作文」をとおして自分の考えをもち習熟が図られたりできるような工夫がされている。 |
| 236 令　書 | (1) 生徒の家庭学習を支援するために、考えを深める「考えようコーナー」や、各時代の特色を捉える「時代ごとの特色をとらえよう」のコーナー、漫画が読めるサイトの QR コードの設定等の工夫が見られる。<br>　地域と連携した学習内容として、「市町村歌を調べてみよう」や「身近な歴史を年表にまとめてみよう」、「展覧会に行こう」のコーナーが設定されており、生徒が地域住民と触れあって学ぶことを通して地域への愛着を育むための工夫が見られる。<br>(2) 生徒の確実な基礎・基本の定着のために、時代ごとの国の分布図や参考資料が豊富に配置されたり、ディベートやディスカッション、新聞にまとめる学習で習熟が図られたりできるように工夫されている。 |

令和７年度使用

# 中学校用教科用図書研究資料

社会（公民的分野）

令和６年７月

教科用図書南那珂採択地区協議会

1　教科目標の達成及び単元（題材）の構成・配列等

〔観点1〕　学習指導要領に示された教科の目標を達成するために、構成・配列等について、どのような工夫が見られるか。

| 発　行　者 | 概　　評 |
|---|---|
| 2　東　書 | (1) 社会科公民的分野の目標を達成するために、章の構成は、課題をつかむ、課題を追究する、課題を解決するという流れで構成されており、単元を貫く探究課題を解決していく学習活動ができるような工夫が見られる。<br>(2) 見開きで1単位時間ごとに学習課題が設定され、現代社会の見方・考え方を働かせて「みんなでチャレンジ」などで追究をし、学習内容の定着を図る「チェック＆トライ」に取り組めるような構成・配列の工夫が見られる。 |
| 17　教　出 | (1) 社会科公民的分野の目標を達成するために、章の構成は、課題を捉え見通す導入ページ、追究する本時ページ、捉えなおし深める特設ページ、学習のまとめと表現ページになっており、見通し・振り返ることができるような工夫が見られる。<br>(2) 見開きで1単位時間ごとに学習課題が設定され、資料を読み取り考察する「LOOK！」や「THINK!」で課題を追究し、最後に学習内容の定着を図る「確認！」「表現！」コーナーに取り組めるような構成・配列の工夫が見られる。 |
| 46　帝　国 | (1) 社会科公民的分野の目標を達成するために、章の構成は章・節・見開きごとに問いと振り返りを設け、学習した内容を積み重ねながら、章の問いを追究していくことができるような工夫が見られる。<br>(2) 見開きで1単位時間ごとに学習課題が設定され、対話を通して学びを深める「アクティブ公民」などで課題を追究し、重要事項の確認と表現力等の育成する「確認しよう」や「説明しよう」に取り組めるような構成・配列の工夫が見られる。 |
| 116　日　文 | (1) 社会科公民的分野の目標を達成するために、章の構成は、導入ページ、本文ページ、問いを解決し学びをまとめ・ふり返るページとなっており、「見方・考え方」を働かせて課題を追究する学習活動ができるような工夫が見られる。<br>(2) 見開きで1単位時間ごとに学習課題が設定され、「見方・考え方」を働かせる「アクティビティー」コーナーなどで課題を追究し、最後に、学習内容の理解を確かめる「確認」「表現」に取り組めるような構成・配列の工夫が見られる。 |

| | |
|---|---|
| 225　自由社 | (1) 社会科公民的分野の目標を達成するために、章の構成は、導入ページ、本文ページ、学習のまとめと発展のページとなっており、毎時間の学習内容について章末で重要語句を確認し、定着させる学習活動ができるような工夫が見られる。<br>(2) 見開きで1単位時間ごとに学習課題が設定され、図表や写真「ミニ知識」などの資料で課題を追究し、最後に、「ここがポイント」コーナーで毎時間の学習内容の振り返りに取り組めるような構成・配列の工夫が見られる。 |

２　内容や指導の充実

〔観点２〕　主体的・対話的で深い学びを通して、目指すべき資質・能力を確実に身に付けさせるために、どのような工夫が見られるか。

| 発　行　者 | 概　　評 |
|---|---|
| ２　東　書 | (1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、生徒自身が探究課題をつかめるよう、各章の「導入の活動」や個人作業とグループ活動の相互作用で多面的・多角的に学びを深める「探究課題を解決しよう」を設けるなどの工夫が見られる。<br>(2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、公民の学習に必要な基礎的・基本的な技能を身に付けることができる「スキル・アップ」や重要な用語を解説した「もっと解説」を設けるなどの工夫が見られる。<br>(3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、「くらげチャート」や「トゥールミン図式」を活用し、自分の考えをまとめたり、表現したりするページを設けるなどの工夫が見られる。<br>(4) 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養できるように、持続可能な社会の実現に向けた課題を意識する巻頭ページや社会に参画する態度を養う「１８歳へのステップ」を設けるなどの工夫が見られる。 |
| 17　教　出 | (1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、導入ページの「ウォーミングアップ公民」で生活体験から単元を貫く課題を捉えさせたり、「公民の技！」で自己内対話やグループ活動で思考を深めたりするなどの工夫が見られる。<br>(2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、本文内容から視野を広げることのできるコラム「公民の窓」や、資料の読み取りの視点を養うための「Q」を設けるなどの工夫が見られる。<br>(3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、手がかりをもとに資料を読み取り、考察させる「STEP！」や社会参画をテーマとした「TRY！」を設けるなどの工夫が見られる。<br>(4) 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養できるように、「持続可能な社会に向けて」で持続可能な未来を意識させたり、巻末の「私の提案」で実社会の課題と向き合い探究させたりするなどの工夫が見られる。 |

| | |
|---|---|
| 46　帝　国 | (1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、各部の学習の初めにイラストで社会の様々な場面を概観する活動から学習の見通しをもたせたり、他者とのやり取りから思考を深める「対話アイコン」を設けたりするなどの工夫が見られる。<br>(2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、実践的な知識・技能を習得する「１８歳への準備」やロールプレイングなどの技術を習得できる、「技能をみがく」を設けるなどの工夫が見られる。<br>(3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、「トゥールミン図式」などの思考ツールや図などを用いて学習の整理と確認を行う「学習を振り返ろう」を設けるなどの工夫が見られる。<br>(4) 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養できるように、巻頭で持続可能な社会の実現に向けた意識を育ませたり、「未来に向けて」で未来の社会をつくる取組を確認できたりするなどの工夫が見られる。 |
| 116　日　文 | (1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、すべての本文ページに学習課題の解決に向けた「見方・考え方」が示されたり、イラストをふまえて協働的な学びを行う「学び合い」アイコンを設けたりするなどの工夫が見られる。<br>(2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、学習に関する事項について理解を深める「公民＋α」や、章末に学習内容を確認する「まとめとふり返り」を設けるなどの工夫が見られる。<br>(3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、巻末に「思考ツールを使ってみよう」を設けて、収集した情報についてまとめたり、深めたりするなどの工夫が見られる。<br>(4) 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養できるように、「ＳＤＧｓマーク」を用いて持続可能な開発目標との関連を図ったり「明日に向かって」でより良い社会参画を促したりするなどの工夫が見られる。 |

| | |
|---|---|
| 225　自由社 | (1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、各単元において、自分たちの生活に身近な題材を取り上げたり、学んだことをもとに協働して思考したりすることができるような「アクティブに深めよう」を設けるなどの工夫が見られる。<br>(2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、既習事項を文章で表現して知識の確認をする「学習のまとめ」や、単元に関連する内容を示した「もっと知りたい」を設けるなどの工夫が見られる。<br>(3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、学んだことを活用して、自分の考えをまとめたり、ディベートしたりする「課題の探求」を巻末に設けるなどの工夫が見られる。<br>(4) 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養できるように、「日本人の価値観・感性」からＳＤＧｓについて考えたり「やってみよう」で身近な事象と学習内容の関連を図ったりするなどの工夫が見られる。 |

3　利便性の向上

〔観点３〕　学習効果や使用上の利便性を高めるとともに生徒にとって分かりやすいという視点から、どのような工夫が見られるか。

| 発　行　者 | 概　　評 |
|---|---|
| 2　東　書 | (1) 学習効果や使用上の利便性については、導入・展開・まとめの学習段階に応じた最適な「ＱＲコンテンツ」を活用し、動画視聴や資料の画像拡大など学びをサポートしたり深めたりするための工夫が見られる。<br>(2) 生徒にとっての分かりやすさについては、導入からまとめまでの学習の流れがわかりやすくデザインされており、学習のまとめでは思考ツールを使って自分の思考を整理し、課題解決につなげる工夫が見られる。 |
| 17　教　出 | (1) 学習効果や使用上の利便性については、教科書の中にある二次元コードを読み取り、動画やクイズなどの各種コンテンツにアクセスして、役立つ情報を活用し、学習効果を上げる工夫が見られる。<br>(2) 生徒にとっての分かりやすさについては、各章を見通す導入ページや学習を振り返るページを設けて、課題を捉え、見通しを立てやすくすることで、学習内容の理解につなげる工夫が見られる。 |
| 46　帝　国 | (1) 学習効果や使用上の利便性については、生徒の個別最適な学びを支援する「ＱＲコンテンツ」が各所に掲載され、関連するコンテンツを活用しながら、生徒が自ら学習内容を定着、深めるための工夫が見られる。<br>(2) 生徒にとっての分かりやすさについては、章や単元に鮮明で読み取りやすい大判イラストや学習と直結する躍動感のある導入資料を多く用いて、学習内容の理解につなげる工夫が見られる。 |
| 116　日　文 | (1) 学習効果や使用上の利便性については、「ＱＲコンテンツ」からアクセスできる様々なコンテンツがあり、タブレットマークを設けて、「動画」などコンテンツの種類が分かるように文字を入れる工夫が見られる。<br>(2) 生徒にとっての分かりやすさについては、イラストなどを活用し、見通しをもって学習に取り組める単元構成であり、新しい事例や、生徒が身近に考えられる事例を取りあげるなどの工夫が見られる。 |

| | |
|---|---|
| 225　自由社 | (1) 学習効果や使用上の利便性については、本文の近くに本文の内容を補う詳しい解説文が掲載されていたり、各単元の重要語句はゴシック(太字)で示し、すべて巻末の「さくいん」に掲載したりする工夫が見られる。<br>(2) 生徒にとっての分かりやすさについては、イラストとともに章のタイトルや導入となるコメントを掲載したり、単元の最後に授業でおさえるべき重要な確認事項をまとめたりするなどの工夫が見られる。 |

4　地域の願いや思い、生徒の実態等

〔観点４〕　家庭や地域と連携した学習の推進とともに、生徒の確実な基礎・基本の定着という観点から、どのような工夫が見られるか。

| 発　行　者 | 概　　評 |
|---|---|
| 2　東 書 | (1) 地域と連携した学習内容として、「もっと知りたい」の中で、取組の事例をもとに自分たちの地域課題を自分ごととして捉えられるよう設定されており、生徒が地域住民と協力し課題を解決して学ぶことを通して地域への愛着を育むための工夫が見られる。<br>(2) 生徒の確実な基礎・基本の定着については、単元のまとめの「ワードチェック」で、一つ一つのワードにページの記載があり、まとめを通して知識の確認がコンパクトに行えるように配置されている。また、QR コードのデジタルコンテンツも豊富なため、学校や家庭、そして個人の学びを支えるなどの習熟が図られるような工夫が見られる。 |
| 17　教 出 | (1) 地域と連携した学習内容として、「持続可能な社会に向けて」の中で、地域の課題解決や当事者の声を聴く場が設定されており、生徒が地域住民と現状を理解して学ぶことを通して地域への愛着を育むための工夫が見られる。<br>(2) 生徒の確実な基礎・基本の定着については、授業ごとに追究課題が提示され、学習内容の「確認」を活用し、自分で表現することができるよう配置されている。また、「単元のまとめと表現」では、学習内容を活用し、現代社会が抱える課題を追究するために、実際にできることの考えを深めさせるなどの習熟が図られるような工夫が見られる。 |
| 46　帝 国 | (1) 地域と連携した学習内容として、「アクティブ公民」の中で、地域に関わるパフォーマンス課題の設定や既習事項との関連が設定されており、生徒が地域住民と新たな社会を創造して学ぶことを通して地域への愛着を育むための工夫が見られる。<br>(2) 生徒の確実な基礎・基本の定着については、架空の都市を題材にした大判イラストを用いた「学習の前に」から、「学習を振り返ろう」まで一貫性が見られ、学習の見通しと振り返りがしやすくなるよう単元が配置されている。また、「重要語句」を用いながら図や思考ツールでまとめるなどの習熟が図られるような工夫が見られる。 |
| 116　日 文 | (1) 地域と連携した学習内容として、「明日に向かって」の中で、地域の課題発見からまとめまでの流れや様々な視点での考察が設定されており、生徒が地域住民と社会参画して学ぶことを通して地域への愛着を育むための工夫が見られる。<br>(2) 生徒の確実な基礎・基本の定着については、毎授業、何を学ぶのかを「学習課題」で明確にし、「見方・考え方」を働かせて学ぶことができるように配置されている。また、「まとめとふり返り」でも、ニュースから「見方・考え方」を用いて、見開き１ページにまとめられ |

| | |
|---|---|
| | るような習熟への工夫が見られる。 |
| 225　自由社 | (1) 地域と連携した学習内容として、「アクティブに深めよう」の中で、地域の関係事項を図式化したり価値を客観視したりする内容が設定されており、生徒が地域住民と地域活性化の学習をして学ぶことを通して地域への愛着を育むための工夫が見られる。<br>(2) 生徒の確実な基礎・基本の定着については、授業ごとに必要最小限の資料と「ミニ知識」、「ここがポイント！」など語句解説のみで情報量を整理されている。「学習のまとめと発展」ではフォントが大きく、文字数も少なく各小単元の重要語句を厳選しまとめているので習熟を図ることができるような工夫が見られる。 |

令和７年度使用

# 中学校用教科用図書研究資料

## 地　図

令和６年７月

教科用図書南那珂採択地区協議会

1　教科目標の達成及び単元（題材）の構成・配列等

〔観点１〕　学習指導要領に示された教科の目標を達成するために、構成・配列等について、どのような工夫が見られるか。

| 発　行　者 | 概　　評 |
|---|---|
| 2　東　書 | (1) 社会科の目標を達成するために、巻頭では地図記号、巻末では地形図の読み取り方、方位などの活用方法が解説されており、地図帳の基本的な見方や使い方が示されている。<br>(2) 社会科三分野との連携が図られるように、一般図に歴史に関連する場所を示す「歴史の舞台」が示されたり、国際社会の結びつきや対立など、現代の諸課題に関連する主題図が掲載されたりしている。<br>(3) 地理的分野の学習に合わせて、世界の各州と日本の各地方に分けて地図・資料が掲載されており、授業で時間をかけて取り扱われる地域は、より多くの資料を取り上げるなどの構成・配列の工夫が見られる。 |
| 46　帝　国 | (1) 社会科の目標を達成するために、巻頭では凡例、地図記号や方位、巻末では地形図について解説されており、地図帳の基本的な見方や使い方が示されている。<br>(2) 地理的分野以外の学習でも活用ができるよう、歴史的事象や現在の諸課題など、歴史的分野や公民的分野に関連する主題図のタイトル横に「歴」や「公」などの表示が設けられている。<br>(3) 地理的分野の学習に合わせて、世界は州ごと、日本は地方ごとに地図・資料が掲載されており、地域の特色が多面的に理解できるよう多様な題材が選定されるなどの構成・配列の工夫が見られる。 |

2　内容や指導の充実

〔観点２〕　主体的・対話的で深い学びを通して、目指すべき資質・能力を確実に身に付けさせるために、どのような工夫が見られるか。

| 発　行　者 | 概　　評 |
|---|---|
| 2　東　書 | (1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、資料活用のコーナー「Bee’s eye」を設けて問いを提示するなどの工夫が見られる。<br>(2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、世界の各州と日本の各地方のページに自然・人口・産業などの主題図を共通して掲載したり、世界と日本を比較するページを配置したりするなどの工夫が見られる。<br>(3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、近年の社会情勢を意識した資料の掲載をしたり、環境問題や防災の資料からその解決を考える問いを設けたりするなどの工夫が見られる。 |
| 46　帝　国 | (1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、問いのコーナー「地図で発見！」を設けて、地図の読み取りを深めさせるなどの工夫が見られる。<br>(2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、世界の各州と日本の各地方の主題図をほぼ同縮尺で提示したり、日本の各地方のページに産業の特徴を捉える統計資料を配置したりするなどの工夫が見られる。<br>(3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、巻頭にSDGｓ特設ページを設け、SDGｓの視点で地図・資料を考察するページを設置するなどの工夫が見られる。 |

3　利便性の向上

〔観点３〕　学習効果や使用上の利便性を高めるとともに生徒にとって分かりやすいという視点から、どのような工夫が見られるか。

| 発　行　者 | 概　　評 |
|---|---|
| 2　東書 | (1) 学習効果や使用上の利便性については、学びを支える多様なデジタルコンテンツが設置されており、中でも、デジタル地球儀は、生徒が主体的に地球儀を回したり、詳しく見たい場所を拡大したりする工夫が見られる。<br>(2) 生徒にとっての分かりやすさについては、前回より大判化したことで、１ページ当たりの情報量が充実した。また、過去と現在の地形を同じページに掲載することで、比較しながら変化を読み取れるなどの工夫が見られる。 |
| 46　帝国 | (1) 学習効果や使用上の利便性については、学習をサポートする「QRコンテンツ」が設置されており、学習に役立つ地図や統計、動画などの資料を活用して、生徒が問いをもちながら主体的に学習できる工夫が見られる。<br>(2) 生徒にとっての分かりやすさについては、世界の各州において、自然環境や生活・文化・産業などをイラストで表記した鳥瞰図を掲載することで、関心を高めながら特色がより視覚的に読み取れるなどの工夫が見られる。 |

4　地域の願いや思い、生徒の実態等

〔観点４〕　家庭や地域と連携した学習の推進とともに、生徒の確実な基礎・基本の定着という観点から、どのような工夫が見られるか。

| 発　行　者 | 概　　評 |
|---|---|
| 1　東　書 | (1) 生徒の家庭学習を支援するために、自らの興味・関心を促す「My Globe」や多面的に考察することのできる「Bee’ｓ eye」が設定されるなどの工夫が見られる。<br>　地域と連携した学習内容として、自然や産業などの資料が設定されており、生徒が地域住民として飫肥杉に興味をもって学ぶことを通して地域への愛着をはぐくむための工夫が見られる。<br>(2) 生徒の確実な基礎・基本の定着のために、デジタル地球儀・地図などの生徒の理解を深めるためのコンテンツが配置されたり、「Bee’ｓeye」のコーナーで地図を深く読み取るための問いを設定することで習熟を図ることができるように工夫されている。 |
| 46　帝　国 | (1) 生徒の家庭学習を支援するために、自らの興味・関心を促す「QRコンテンツ」や補充・深化することのできる「地図で発見」が設定されるなどの工夫が見られる。<br>　地域と連携した学習内容として、自然や産業などの資料が設定されており、生徒が地域住民として興味をもって学ぶことを通して地域への愛着をはぐくむための工夫が見られる。<br>(2) 生徒の確実な基礎・基本の定着のために、地図の基礎・基本をアニメーション形式で解説するQRコンテンツが配置されたり、「地図で発見！」のコーナーで社会的な見方・考え方を働かせる問いを設定することで習熟を図ることができるように工夫されている。 |

令和７年度使用

# 中学校用教科用図書研究資料

数　　学

令和６年７月

教科用図書南那珂採択地区協議会

１　教科目標の達成及び単元（題材）の構成・配列等

〔観点１〕　学習指導要領に示された教科の目標を達成するために、構成・配列等について、どのような工夫が見られるか。

| 発　行　者 | 概　　評 |
|---|---|
| ２　東書 | (1) 数学科の目標を達成するために、ヒントと解答のある「クイックチェック」を通して、より短いスパンで学んだことを確認することで、学習内容の習熟・定着を図る工夫がされている。また、算数と数学の学びをつないだり、日常生活や社会の事象に関わる問題を発見・解決したりすることで、生徒の主体的な学びを促すような構成・配列の工夫が見られる。 |
| ４　大日本 | (1) 数学科の目標を達成するために、練習問題を補充する「プラス・ワン」等で、練習だけでなく、確かめや振り返りも行うことで、学習内容の習熟・定着を図る工夫がされている。また、 話合い活動を通して見いだしたことがらを、その後の例題や練習問題の解決につなげていく学習過程が、各節ごとに丁寧に示されるなどの構成・配列の工夫が見られる。 |
| １１　学図 | (1) 数学科の目標を達成するために、授業や家庭学習で活用できる「計算力を高めよう」を通して、多くの問題にチャレンジすることで、学習内容の習熟・定着を図る工夫がされている。また、「章・節のとびら」を設定し、身のまわりの生活や数学の学習の中から、生徒が自ら問題を発見し、考えることができるようにするなどの構成・配列の工夫が見られる。 |
| １７　教出 | (1) 数学科の目標を達成するために、基礎・基本を確認できる「学習のまとめ」から活用問題の「章の問題」へと段階的に取り組むことで学習内容の習熟・定着を図る工夫がされている。また、小中や各学年の滑らかな接続に配慮し、章を学習する前に既習事項を振り返ったり、学び直しをしたりする問題を設定するなどの構成・配列の工夫が見られる。 |
| ６１　啓林館 | (1) 数学科の目標を達成するために、基本・応用問題に加え、学習したことを自分の言葉でまとめる振り返りの場面を設定することで、学習内容の習熟・定着を図る工夫がされている。また、節の始めの「学習のとびら」では、数学を学ぶ意義と有用性を実感し、話合い活動を通して解決の見通しをもつことができるようにするなどの構成・配列の工夫が見られる。 |

| | |
|---|---|
| １０４　数　研 | (1) 数学科の目標を達成するために、練習問題や「学んだことを活用しよう」等のデジタルコンテンツを各単元で豊富に活用することによって、学習内容の習熟・定着を図る工夫がされている。また、各章に「ふりかえり」を設定し、学び直しを行うとともに、巻末の既習事項をまとめたページで前学年とのつながりを確認できるようにするなどの構成・配列の工夫が見られる。 |
| １１６　日　文 | (1) 数学科の目標を達成するために、各自で取り組める多様な問題が章末に用意され、基本から発展まで習熟度に応じて取り組めるなどの、学習内容の習熟・定着を図る工夫がされている。また、既習事項である基礎的・基本的な内容を必要な場面で確かめることができる「確かめ」で、生徒のつまずきを未然に防ぐようにするなどの構成・配列の工夫が見られる。 |

2　内容や指導の充実

〔観点２〕　主体的・対話的で深い学びを通して、目指すべき資質・能力を確実に身に付けさせるために、どのような工夫が見られるか。

| 発　行　者 | 概　　評 |
|---|---|
| 2　東　書 | (1) 数学的な見方・考え方を働かせるために、「深い学びのページ」では課題解決の流れをページ枠に示し、個人で思考した後、次ページで話合い活動などを行い、学習内容を深めることができる構成にすることで、主体的・対話的で深い学びを展開することができるような工夫が見られる。<br>(2) 「知識及び技能」を習得できるように、学習の土台となる内容をまとめた「学びのベース」を巻末に設定することで、前学年までの学習内容を振り返ったり、小中学校の学びのつながりを確認したりすることができるなどの工夫が見られる。<br>(3) 「思考力・判断力・表現力等」を育成できるように、各章末に「活用の問題」を設定し、身に付けた知識・技能を活用して社会の事象に関わる問題を解決する過程で、自ら考え表現する力を高める問題に取り組めるようにするなどの工夫が見られる。 |
| 4　大日本 | (1) 数学的な見方・考え方を働かせるために、各章の「利用」の課題では、思考の段階に対応させて問題発見・問題解決の流れをページの端に示し、仲間と協力して問題解決に取り組んだり、解決の過程を振り返ったりするなど、主体的・対話的で深い学びを展開することができるような工夫が見られる。<br>(2) 「知識及び技能」を習得できるように、学習内容を振り返るとともに、学習を広げたり活用したりする問題「学びにプラス」を設けることで、数学のよさを実感し、主体的に問題に取り組んだり、学びを深めたりすることができるなどの工夫が見られる。<br>(3) 「思考力・判断力・表現力等」を育成できるように、学習内容をもとにして考えが正しいかどうかを判断する問い「判断しよう」や、数学のことばや図などを使ってまわりの人に共通点やちがいを伝え合う問い「伝えよう」を設定するなどの工夫が見られる。 |
| 11　学　図 | (1) 数学的な見方・考え方を働かせるために、節の導入で身近な題材から疑問を見つけ、「Q」では話合い活動から目標を立て、「数学的活動のページ」では、問題を発見し答えに至るまでの過程を丁寧に示すなど、主体的・対話的で深い学びを展開することができるような工夫が見られる。<br>(2) 「知識及び技能」を習得できるように、「例」の中にノート形式で、模範的な解答の書き方を示し、解答のポイントになる部分を吹き出しで補足することにより、ノート整理の基礎・基本を身に付けることができるなどの工夫が見られる。<br>(3) 「思考力・判断力・表現力等」を育成できるように、「説明する力をつけよう」では、なぜそうなるのか、相手にわかりやすく表現する力を身に付けるとともに、巻末では、レポートの作成方法や発表のしかたを具体的に示すなどの工夫が見られる。 |

| | |
|---|---|
| １７　教　出 | (1) 数学的な見方・考え方を働かせるために、「？(疑問)」から、「！(わかったこと)」を見いだし、「！？(新たな疑問)」へつなげる数学的活動のサイクルを位置づけ、一人一人の生徒が問いをもって学びあえるなど、主体的・対話的で深い学びを展開することができるような工夫が見られる。<br>(2) 「知識及び技能」を習得できるように、「例」と「問」の間に「たしかめ」の問題を配置することで、学習した内容を繰り返し確認するとともに、スモールステップで練習できるようにするなどの工夫が見られる。<br>(3) 「思考力・判断力・表現力等」を育成できるように、「学びのプロセス」で、思考の流れを具体的に示し、自分で考える過程や他者に考えを伝える過程を通して、学習内容をさらに深めていく活動を数多く設けるなどの工夫が見られる。 |
| ６１　啓林館 | (1) 数学的な見方・考え方を働かせるために、２つの標識「学びをひろげるときに役立つ考え方」「解決するときの考え方」を示すことで、大切な考え方を自然に体得させ、単元末では、わかったことなどをまとめる場面を設定するなど、主体的・対話的で深い学びを展開することができるような工夫が見られる。<br>(2) 「知識及び技能」を習得できるように、多種多様な「例」や「例題」を数多く配置し、直後にそれらを参照しながら解くことができる「問」を配置することで、生徒の学習内容の定着を促すなどの工夫が見られる。<br>(3) 「思考力・判断力・表現力等」を育成できるように、「説明しよう」や「話しあおう」で、ことがらが成り立つ理由を説明したり、他者と自分の考えの違いを理解して正しい考えを伝えたりする活動を設けるなどの工夫が見られる。 |
| １０４　数　研 | (1) 数学的な見方・考え方を働かせるために、「Q」や「TRY」の場面を中心に、生徒と先生のキャラクターの発言から課題を別の角度でとらえ、新たな疑問をもたせ、学習の内容の理解を深めようとするなど、主体的・対話的で深い学びを展開することができるような工夫が見られる。<br>(2) 「知識及び技能」を習得できるように、デジタルコンテンツ「Link補充」で、既習内容をふり返る問題や反復問題、さらには発展的な問題を豊富に設定することで、目的に応じて生徒自らが練習問題を選択できるようにするなどの工夫が見られる。<br>(3) 「思考力・判断力・表現力等」を育成できるように、「方法の説明」や「理由の説明」で、生徒同士の会話の中から同じように考えたり、具体的な数で考えたりする活動を通して、伝え合う力が高まるようにする場面を豊富に設けるなどの工夫が見られる。 |

| | |
|---|---|
| 116　日　文 | (1) 数学的な見方・考え方を働かせるために、問題解決型の「学び合おう」では、自分で考え、対話を通じて学び合う問題解決の過程を示し、また巻末には「ふり返りシート」「対話シート」を用意し、考える力や説明する力を高めるなど、主体的・対話的で深い学びを展開することができるような工夫が見られる。<br>(2) 基礎的・基本的な知識や技能を身に付けるための二次元コード「身につける」では、練習問題が豊富に配置されており、生徒が何度でも繰り返し問題に取り組むことができるようにするなどの工夫が見られる。<br>(3) 「思考力・判断力・表現力等」を育成できるように、章末の「説明できるかな？」では、「大切な見方・考え方」で示されたことがらを活用し、方法や理由などを数学の用語を用いて説明する場面を設けるなどの工夫が見られる。 |

３　利便性の向上

〔観点３〕　学習効果や使用上の利便性を高めるとともに生徒にとって分かりやすいという視点から、どのような工夫が見られるか。

| 発　行　者 | 概　　評 |
|---|---|
| ２　東　書 | (1) 学習効果や使用上の利便性を図るため、キャラクターの吹き出しに「同じように考えると」や「それなら」という文言をつけ、学びのつながりを自覚できるようにするとともに、より細かな単位で理解を確認する「クイックチェック」を設けることで、生徒自身がつまずきを早期に発見できるような工夫が見られる。 |
| ４　大日本 | (1) 学習効果や使用上の利便性を図るため、ウェブコンテンツを使って学習を深めることができる場面にマークをつけ、シミュレーションや動画、資料などのコンテンツを用意するとともに、付録に各学年のまとめを掲載し、使用時に教科書から切り取って冊子として持ち運ぶことができるような工夫が見られる。 |
| １１　学　図 | (1) 学習効果や使用上の利便性を図るため、各領域ごとに「ふりかえり」のページを挿入し、単元導入時にスムーズにその学年の学習に入っていけるようにするとともに、「さらなる数学へ」では、１年間の学びを生かして、日常生活や社会の様々な課題を考察したり解決したりできるような工夫が見られる。 |
| １７　教　出 | (1) 学習効果や使用上の利便性を図るため、各章の終わりに設定した「章の問題」を「たしかめよう」→「力をのばそう」→「学んだことを活用しよう」という構成にするとともに、デジタルコンテンツ「まなびリンク」で解決の手立てを示すなど、生徒の理解度に応じて学習を進めることができるような工夫が見られる。 |
| ６１　啓林館 | (1) 学習効果や使用上の利便性を図るため、単元内にある節の学習を進めれば解決できる身のまわりの問題を、すべての節の先頭に「学習のとびら」として設定するとともに、場面理解や話合い活動、試行錯誤する活動をサポートするコンテンツなどを用意し、学習内容の理解を促すような工夫が見られる。 |
| １０４　数　研 | (1) 学習効果や使用上の利便性を図るため、本文や例を丁寧に記述し要所で図解を用いることで、生徒自身で理解を深められるようにするとともに、教科書の内容を補充する動画や資料などの５種類のコンテンツを用意し、多様な生徒に合った学びができるような工夫が見られる。 |
| １１６　日　文 | (1) 学習効果や使用上の利便性を図るため、デジタルコンテンツを使うと有効な場所に二次元コードを配置し、その上に分類を付記するとともに、生徒が苦手を克服できるように、まちがえやすい箇所に「誤答に注意！」を表示したり、「表現の例」として分かりやすい説明を具体的に示したりするような工夫が見られる。 |

4　地域の願いや思い、生徒の実態等

〔観点４〕　家庭や地域と連携した学習の推進とともに、生徒の確実な基礎・基本の定着という観点から、どのような工夫が見られるか。

| 発　行　者 | 概　　評 |
|---|---|
| 2　東　書 | (1) 生徒の家庭学習を支援するために、既習内容を振り返る「学びのベース」、少し難しい「補充の問題」などが用意されている。さらに、反復が効果的な「問」には「フラッシュカード」を設け、繰り返し学習ができるようにするなどの工夫が見られる。<br>(2) 生徒の確実な基礎・基本の定着のために、生徒自身がつまずきを発見できる「クイックチェック」にデジタルコンテンツ「ヒントと解答」を用意することで、生徒が解答を見る前にヒントを見てもう一度考えることができるように工夫されている。 |
| 4　大日本 | (1) 生徒の家庭学習を支援するために、適宜「プラス・ワン」を付属させ、生徒が習熟度に応じて取り組むことができるようにしている。さらに、もう少し取り組みたいときに活用できる「補充問題」を巻末に用意するなどの工夫が見られる。<br>(2) 生徒の確実な基礎・基本の定着のために、「活動」・「例」・「例題」を適切に配置し、学習の流れを分かりやすく構成することで、基礎的な概念や原理・法則について理解することができるように工夫されている。 |
| 11　学　図 | (1) 生徒の家庭学習を支援するために、章末に「できるようになったこと」「さらに学んでみたいこと」を設置し、生徒が自己評価を行うことで、もっと学んでみたいという意欲を引き出す工夫が見られる。<br>(2) 生徒の確実な基礎・基本の定着のために、ノート形式の解答を提示し、ノートを書く際に気を付ける点についても同時に示している。また、「正しいかな？」や「パトロール隊」で誤りやすい箇所を明確にしたり説明したりするように工夫されている。 |
| 17　教　出 | (1) 生徒の家庭学習を支援するために、章末問題を習熟度に応じて取り組むことができる構成にするとともに、「◎・○・△」で自己評価して学習履歴をとれるようにすることで、家庭学習を効果的に行うことができるようにする工夫が見られる。<br>(2) 生徒の確実な基礎・基本の定着のために、各章の入口に「学習する前に」、出口に「学習のまとめ」を配置するとともに、例題と問の間にスモールステップとなる「たしかめ」を設けて基礎的・基本的な内容を確実に習得できるように工夫されている。 |

| | |
|---|---|
| 61　啓林館 | (1) 生徒の家庭学習を支援するために、章末問題「学びを身に付けよう」では、「考え方」や詳しい「解説動画」をＱＲコンテンツで用意し、生徒が一人でも取り組みやすいようにするなどの工夫が見られる。<br>(2) 生徒の確実な基礎・基本の定着のために、「例」や「例題」、及び例や例題に習って解くことができる「問」を十分に配置している。さらに「問」と同種類の問題をＱＲコンテンツ「補充問題」で豊富に用意し習熟が図られるように工夫されている。 |
| 104　数　研 | (1) 生徒の家庭学習を支援するために、教科書の内容に関連した情報を表示する動画コンテンツ「Link 資料」を配置することで、生徒が家庭学習において要点を確認できるようにするなどの工夫が見られる。<br>(2) 生徒の確実な基礎・基本の定着のために、章のはじめに「ふりかえり」のページを設け、新たな章の学びがスムーズに行くようにしている。さらに、「例」や「問」を細かく配置し、基礎・基本の習熟が図られるように工夫されている。 |
| 116　日　文 | (1) 生徒の家庭学習を支援するために、「見る」「ためす」などのＱＲコンテンツを豊富に配置し、生徒が自らアニメーションによる解説や動画によるシミュレーションを視聴できるようにするなどの工夫が見られる。<br>(2) 生徒の確実な基礎・基本の定着のために、新しい章に入る直前に、既習事項を確認する「次の章を学ぶ前に」が配置されている。さらに、「例」に見出しを付けることで、基礎的・基本的な内容が理解しやすく、復習しやすいように工夫されている。 |

令和７年度使用

# 中学校用教科用図書研究資料

理　　科

令和６年７月

教科用図書南那珂採択地区協議会

1　教科目標の達成及び単元（題材）の構成・配列等

〔観点１〕　学習指導要領に示された教科の目標を達成するために、構成・配列等について、どのような工夫が見られるか。

| 発　行　者 | 概　　評 |
|---|---|
| 2　東　書 | (1) 理科の目標を達成するために、学習の流れやポイントを「見える化」するとともに、単元内に「じっくり探究」を設け、より深く探究することができるようにしている。また、章ごとに「Before＆After」があり、生徒が見通しをもって学習に取り組み、学習前後の自分の考えの変容を実感できるような構成・配列等の工夫が見られる。 |
| 4　大日本 | (1) 理科の目標を達成するために、単元の導入において「これまでに学習したこと」「これから学習すること」を設け、既習事項を振り返り、見通しをもった学習を行うことができるようにしている。また、単元末では「探究活動」に取り組み、既習事項を使って新たな課題を解決することにより、さらに学びが深くなるような構成・配列等の工夫が見られる。 |
| 11　学　図 | (1) 理科の目標を達成するために、「探究のページ」において、探究の手法を段階的に理解しやすい構成にしている。また、「学びのあしあと」「Can-Do List」等を設け、生徒が単元全体や学習内容の見通しをもって学習に取り組み、学習後にどのような力が身に付き、考えがどう深まったかを生徒自身が実感できるような構成・配列等の工夫が見られる。 |
| 17　教　出 | (1) 理科の目標を達成するために、巻頭に「探究の進め方」の折り込みを設け、本文ページを開いた状態でも、探究の過程を確認しながら学習できるようにしている。また、章の導入と章末において、「学習前の私」「学習後の私」をそれぞれ設け、学びの深まりを生徒自身が認識できるような構成・配列等の工夫が見られる。 |
| 61　啓林館 | (1) 理科の目標を達成するために、単元の導入において、「学びの見通し」「学ぶ前にトライ！」を設け、様々な知識を活用して解決することのできる問いを設定し、課題意識をもって学習に取り組むことができるようにしている。また、同じ問いを、単元末に「学んだ後にリトライ！」として設け、科学的に探究できるような構成・配列等の工夫が見られる。 |

２　内容や指導の充実

〔観点２〕　主体的・対話的で深い学びを通して、目指すべき資質・能力を確実に身に付けさせるために、どのような工夫が見られるか。

| 発　行　者 | 概　　評 |
|---|---|
| ２　東　書 | (1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、各節の導入の「レッツ　スタート！」において生徒が自ら気付きを得られるように問題を示している。また、「理科の見方・考え方」を設定し、生徒に見方・考え方を具体的に示すなど、対話を促したり、学びを深めたりするような工夫が見られる。<br>(2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、章末に「学んだことをチェックしよう」を設定するとともに、単元末に「学習内容の整理」「確かめ問題」「活用問題」を設け、自己チェックすることで、理解できるまで学習しやすくなるような工夫が見られる。<br>(3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、「学びを生活や社会に広げよう」で、学習したことを他教科と関連付けたり、日常生活や社会に結び付けたりし、自分の考えを表現できる場面を設定するなどの工夫が見られる。 |
| ４　大日本 | (1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、各学年で重視する探究の過程を示し、探究の場面を明確にすることで、主体的な学習を促している。また、「話し合おう」などの対話的活動を設定することで、深い学びが実現できるような工夫が見られる。<br>(2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、つまずきやすい内容では、「つながる」で他学年、他教科との関連や「例題」で解き方の見本を示し、「章末問題」「単元末問題」へと段階的に取り組むことで、基礎的・基本的な学習内容を確認できるような工夫が見られる。<br>(3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、各節で身に付けた問題解決の能力を、単元の最後の「探究活動」において結び付け、連続性をもたせることで、３年間を通して科学的に探究するために必要な資質・能力が育成できるような工夫が見られる。 |

| | |
|---|---|
| 11　学　図 | (1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、導入場面や仮説の設定、計画立案の場面等で、生徒の話合いのイラストを提示し、多様な考え方に触れるようにしている。また、探究の手法を段階的に示すことで、生徒が問題を発見し、話し合いながら探究を進められるような工夫が見られる。<br>(2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、探究のページと、探究活動の後に学習した内容を簡潔にまとめたページの体裁を区別し、単元末には、「学習のまとめ」を設定することで、生徒が身に付けるべき学習内容が理解しやすくなるような工夫が見られる。<br>(3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、観察・実験の明確な結果例や考察の視点を例示したり、コラム「理路整然」を設定し、科学的探究の手法を継続して学んだりすることで、科学的な考え方の理解を深めるような工夫が見られる。 |
| 17　教　出 | (1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、「疑問から探究してみよう」を提示し、生徒キャラクターの吹き出しをもとに課題を自分事してとらえられるようにしている。また、課題の解決に向けて、生徒が対話的に学習を進め、深い学びを実現できるような工夫が見られる。<br>(2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、学習の振り返りとまとめができる「要点をチェック」や、理解度を確かめる問題を、章や節の最後の小さなまとまりから、学年末の大きなまとまりへの５段階で設定することで、学習内容を定着させるような工夫が見られる。<br>(3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、実験結果の欄が生徒にとって書き込みやすいように提示されており、さらに「私のレポート」の具体例を示すことで、それらを参考に論理的に自分の考えをまとめ、結論を導くことを促すような工夫が見られる。 |

| | |
|---|---|
| 61　啓林館 | (1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、各単元に1つ「探Q実験」を設定し、「探Qシート」により生徒の主体的な学習を支援している。また、「Action活用してみよう」など、発表や活動の場面を設定することで学びを深めるような工夫が見られる。<br>(2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、つまずきやすい内容を「例題」で解説し、同じ考え方で解ける「練習」に取り組んだり、勘違いしやすい事項は「なるほど」で正しく理解できるよう二次元コード等で情報を示したりするなどの工夫が見られる。<br>(3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、これまで学んだことから生じた疑問を「みんなで探Qクラブ」で解決していく過程を通して、日常生活にある科学を意識できるようにし、探究を継続・発展させられるような工夫が見られる。 |

3　利便性の向上

〔観点３〕　学習効果や使用上の利便性を高めるとともに生徒にとって分かりやすいという視点から、どのような工夫が見られるか。

| 発　行　者 | 概　　評 |
|---|---|
| 2　東　書 | (1) 学習効果や使用上の利便性を高めるために、1見開き1時間構成となっており、授業の見通しを立てやすくなっている。また、複雑な思考をシンプルなイラスト等にして掲載することで、生徒の学習意欲を喚起できる工夫が見られる。 |
| 4　大日本 | (1) 学習効果や使用上の利便性を高めるために、多様なキャラクターを用いて、多面的に考えるためのヒントを提示している。また、実験のページに着目点が設定されており、生徒が見通しをもって学習に取り組める工夫が見られる。 |
| 11　学　図 | (1) 学習効果や使用上の利便性を高めるために、全ページに二次元コードを設け、個に応じた学びを実現している。また、章ごとに大きな写真や SDGs のアイコンを掲載し、生徒が学習内容と日常生活との関連を意識できる工夫が見られる。 |
| 17　教　出 | (1) 学習効果や使用上の利便性を高めるために、教科書のサイズや文字を大きくし、視覚的にゆったりとした紙面になっている。また、課題と結論を赤囲みで強調することで、生徒が課題と結論の整合性を意識できるような工夫が見られる。 |
| 61　啓林館 | (1) 学習効果や使用上の利便性を高めるために、ICT をどの場面でどのように使うのかを明記している。また、章ごとの「Review」の中で、学びの過程の振り返りを意識できるような工夫が見られる。 |

4　地域の願いや思い、生徒の実態等

〔観点４〕　家庭や地域と連携した学習の推進とともに、生徒の確実な基礎・基本の定着という観点から、どのような工夫が見られるか。

| 発　行　者 | 概　　評 |
|---|---|
| 2　東　書 | (1) 豊かな学びになるために、章ごとでの学習意欲を喚起するための「スタート動画」や職業とつながる「お仕事図鑑」、日常生活とつながる「社会につながる科学」のデジタルコンテンツが設定されるなどの工夫が見られる。<br>(2) 生徒の確実な基礎・基本の定着のために、各章の終わりに「章末問題」が配置され、単元末にある「学習内容の整理」や「確かめ問題」によって、習熟を図ることができるように工夫されている。 |
| 4　大日本 | (1) 豊かな学びになるために、「科学館・博物館」「動物園・水族館・植物園」のデジタルコンテンツや学習内容とつながりのある「Science Press」、日常生活とつながる「くらしの中の理科」が設定されるなどの工夫が見られる。<br>(2) 生徒の確実な基礎・基本の定着のために、「例題」「解答例」「演習」が配置され、「章末問題」「まとめ」に加え、「単元末問題」「読解力問題」によって、習熟を図ることができるように工夫されている。 |
| 11　学　図 | (1) 豊かな学びになるために、理科の有用性を知る「なぜ理科を学ぶの？」や基本操作や発展的な学習を取り入れた「補充資料」、多様な質問に対応できるデジタルコンテンツ「チャットボット」が設定されるなどの工夫が見られる。<br>(2) 生徒の確実な基礎・基本の定着のために、「課題」に対応した「まとめ」が設定され、章末と単元末に「学習のまとめ」、巻末に「計算問題」「読解力強化問題」によって、習熟を図ることができるように工夫されている。 |
| 17　教　出 | (1) 豊かな学びになるために、研究者からのメッセージ動画である「科学の扉」や生物名や気象などを調べることができる「Webずかん」、科学の話題を紹介する「ハローサイエンス」が設定されるなどの工夫が見られる。<br>(2) 生徒の確実な基礎・基本の定着のために、「計算しよう」「演習しよう」などが配置され、章末の「要点をチェック」「要点と重要用語の整理」によって、習熟を図ることができるように工夫されている。 |

| | |
|---|---|
| 61　啓林館 | (1) 豊かな学びになるために、興味を引き出す動画「はてなスイッチ」や学びの中で生徒から出た疑問をテーマとして扱った「みんなで探Ｑクラブ」、理科の有用性や日常生活とつながる「ひろがる世界」が設定されるなどの工夫が見られる。<br>(2) 生徒の確実な基礎・基本の定着のために、二次元コードにより基礎問題、練習問題、動画を見て考える問題、章末の「Review」や単元末の「学習のまとめ」「力だめし」によって、習熟を図ることができるように工夫されている。 |

令和７年度使用

# 中学校用教科用図書研究資料

音楽（一般）

令和６年７月

教科用図書南那珂採択地区協議会

１　教科目標の達成及び単元（題材）の構成・配列等

〔観点１〕　学習指導要領に示された教科の目標を達成するために、構成・配列等について、どのような工夫が見られるか。

| 発　行　者 | 概　　評 |
|---|---|
| 17　教　出 | (1) 表現及び鑑賞の幅広い活動を実現させるために、教材と選択可能なオプション教材・資料を組み合わせて扱うことができるような工夫がされている。歌唱、鑑賞、創作の分野が関連付けて構成されており、学習内容や教材が一目で分かるように「学習ＭＡＰ」として示す工夫が見られる。<br>(2) 「音楽的な見方・考え方」を働かせながら資質・能力を育むことができるように、一つの題材内で、教材の特徴を生かして関連・対照・対比できるような教材を設定したり、表現活動と鑑賞活動を組み合わせたりと実感を伴った学びになるような工夫が見られる。 |
| 27　教　芸 | (1) 表現及び鑑賞の幅広い活動を実現させるために、ねらいに応じて教材や学習活動を選択することができるような工夫がされている。育成を目指す力の「思考力・判断力・表現力」「知識」「技能」と対応する題材が構成され、一目で分かるように見開きのページで示す工夫が見られる。<br>(2) 「音楽的な見方・考え方」を働かせながら資質・能力を育むことができるように、音楽を形づくっている要素を明確に示したり、要素の関連性を重視した表現教材と鑑賞教材の組み合わせを可能にしたりと、何を学ぶか意識しながら学習できるような工夫が見られる。 |

２　内容や指導の充実

〔観点２〕　主体的・対話的で深い学びを通して、目指すべき資質・能力を確実に身に付けさせるために、どのような工夫が見られるか。

| 発　行　者 | 概　　評 |
|---|---|
| I7　教　出 | (I) 生徒の主体的･対話的で深い学びの実現を図るために、全学年の鑑賞領域に、「話し合おう」のコーナーが設けられ、自分の考えや感じ取った曲想、共通点や相違点等をまとめ、意見が交流できるようになっており、対話を通して学びが深められるように工夫されている。<br>(2) 生きて働く「知識・技能」の習得のために、「学習ＭＡＰ」ページ下にある「学習の進め方」により、「音楽を形づくっている要素」を示し、それを軸にした目標を確認しながら学習を進められるような工夫が見られる。また、聴き取ったり感じ取ったりした内容について、要素と関連付けてまとめられるように示されている。さらに、各教材ページ端に、用語や記号などの共通事項や特徴的な楽典の内容が取り上げられ、巻末の「楽典」とつなげる工夫が見られる。<br>(3) 音楽的な「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、キャラクターの吹き出しによって、「思考力・判断力・表現力等」を促すための学習活動のポイントや学習内容に関連した項目を示す工夫が見られる。また、生徒が二次元コードで読み取った創作のワークシートに直接書き込み、学習状況を確認したり、保存したりできるような工夫が見られる。<br>(4) 「学びに向かう力・人間性等」の涵養を目指すために、全学年にわたって「コンピューターで表現しよう」「音楽著作権について」、「劇場・音楽堂へ行こう！」「ポピュラー音楽図鑑」「日本と西洋の歩み」「音楽のチカラで人と社会を未来へつなぐ」などの資料ページが掲載され、音楽科の学習と学校外における音楽活動とのつながりが確認できるような工夫が見られる。また、全学年で「口唱歌」に取り組むページが掲載され、我が国の伝統的な音楽を身近に愛着をもって感じられる工夫が見られる。さらに、各学年の「どんな特徴があるかな」のまとめとして２・３年下の「プレゼンしよう」が設定されており、既習曲を自ら研究し、音楽を形づくっている要素に着目し、３年間の学びの成果を他者に伝えることで、これまでの学びを再確認するような工夫が見られる。 |

| | |
|---|---|
| 27　教　芸 | (1) 生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るために、1年、2・3年上の表現・鑑賞領域に「学びのコンパス」のページが設けられ、自分の考えや感じ取った曲想等をまとめ、意見が交流できるようになっており、対話を通して学びが深められるように工夫されている。<br>(2) 生きて働く「知識・技能」の習得のために、各教材ページ端に示された「音楽を形づくっている要素」を、表現（歌唱、創作）や鑑賞の学習活動において焦点化し、意識しながら活動できるような工夫が見られる。また、巻末の「音楽を形づくっている要素」のページでは、各要素の説明と関連する教材のページが示されている。さらに、各教材ページ端に、用語や記号などの共通事項が新出時に取り上げられ、巻末の「音楽の約束」とつなげる工夫が見られる。<br>(3) 音楽的な「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、キャラクターの吹き出しによって、「思考力、判断力、表現力等」を促すためのヒントを多く示す工夫が見られる。また、生徒が二次元コードで読み取った創作ツールで、作品例やワークシートを再生して確認したり、繰り返し思考したりすることができるような工夫が見られる。<br>(4) 「学びに向かう力・人間性等」の涵養を目指すために、学年に応じたテーマを基に、人々の生活や音楽との関連を段階的に考える資料や教材が提示され、「日本音楽入門」「社会を映し出す音楽」「ミュージカル」「ポピュラー音楽」など特集ページが掲載され、学習した題材をジャンルごとに整理し学びを深められるよう示されている。また、日本音楽を学習する場面で「図形楽譜」を用いることで、節回し等を体感しながら活動することができ、伝統的な音楽を身近に感じられる工夫が見られる。さらに、全学年にある「音楽の学びを振り返ろう」では、学習内容と音楽を形づくっている要素に着目しプレゼンテーションする場が設けられており、他者に伝えることでこれまでの学びを再確認し、次の学年の主体的な学びにつなげることができるような工夫が見られる。 |

3　利便性の向上

〔観点３〕　学習効果や使用上の利便性を高めるとともに生徒にとって分かりやすいという視点から、どのような工夫が見られるか。

| 発　行　者 | 概　　評 |
|---|---|
| 17　教　出 | (1) 生徒の学習への興味・関心を高めるために、巻頭ページでは音楽界の第一線で活躍している方からの音楽に対する思いや中学生へのメッセージが掲載されている。また、学習内容を視覚的に示すために、折り込みを使ったワイドな写真の掲載やイラスト、色分けなどの工夫が見られる。<br>(2) 資料について、歌唱では、「sing！sing！」のページで歌うための姿勢や発音などをチェックしながら確認できるように分かりやすいイラストで示す工夫がされている。鑑賞では、「Let’s Try！」のページで楽曲に関する体験活動を通して、日本音楽の特徴や曲の仕組みについて理解を深めることができるよう工夫されている。<br>(3) 個別最適な学びを可能にするために、生徒自身が必要な時に適宜、二次元コードを読み取り、動画や音源を視聴しながら学習を進められるような工夫が見られる。 |
| 27　教　芸 | (1) 生徒の学習への興味・関心を高めるために、巻頭ページでは音楽をより身近なものとして捉えられるよう各界で活躍する方から中学生へのメッセージが掲載されている。また、キャラクターの会話により学習活動のポイントを示すなど、生徒の気付きを促す工夫が見られる。<br>(2) 資料について、歌唱では、全学年「My Voice！」のページで、歌うための姿勢や歌声づくりについて説明し、1年生では声の出る仕組みや変声期について理解できるよう工夫されている。鑑賞では、日本音楽やポピュラー音楽などについて見開きのページで詳しく掲載されており、音楽文化をより身近なものとして感じられるよう工夫されている。<br>(3) 個別最適な学びを可能にするために、二次元コードの創作ツールを活用することで、生徒自身が作成した旋律を聴きながら試行錯誤できる活動を促すような工夫が見られる。 |

4　地域の願いや思い、生徒の実態等

〔観点４〕　家庭や地域と連携した学習の推進とともに、生徒の確実な基礎・基本の定着という観点から、どのような工夫が見られるか。

| 発　行　者 | 概　　評 |
|---|---|
| 17　教　出 | (1) 地域と連携した学習内容として、「郷土のさまざまな民謡」や「郷土の音楽や芸能」が設定されており、生徒が地域の伝統音楽や文化の伝承について学び、特徴を理解することを通して、地域への愛着をはぐくむための工夫が見られる。<br>(2) 生徒の確実な基礎・基本の定着のために、「どんな特徴があるかな？」において、音楽を形づくっている要素について気づいたことや感じ取ったことを話し合う場を設定し、それらのはたらきを理解して学習を進めることができるように工夫されている。また、巻末見開きに「楽典」のコーナーを設け、３年間を通して学習する楽典がまとめられ、基礎的・基本的な学習内容を随時振り返ることができるように工夫されている。 |
| 27　教　芸 | (1) 地域と連携した学習内容として、「郷土に伝わる民謡を調べよう」や「受け継ごう！郷土の祭りや芸能」が設定されており、生徒が地域の伝統音楽や芸能に興味・関心を持って調べ、継承していく態度をはぐくむための工夫が見られる。<br>(2) 生徒の確実な基礎・基本の定着のために、巻末資料の「音楽を形づくっている要素」において、活動のイラストや楽譜等の例を図示することにより、それぞれの要素について具体的に確認でき、イメージしやすくなるように工夫されている。また、巻末に「音楽の約束」のコーナーを設け、各学年で学習する楽典がまとめられ、基礎的・基本的な学習内容を随時振り返ることができるように工夫されている。 |

令和７年度使用

# 中学校用教科用図書研究資料

音楽（器楽合奏）

令和６年７月

教科用図書南那珂採択地区協議会

1　教科目標の達成及び単元（題材）の構成・配列等

〔観点1〕　学習指導要領に示された教科の目標を達成するために、構成・配列等について、どのような工夫が見られるか。

| 発　行　者 | 概　　評 |
|---|---|
| 17　教　出 | (1) 器楽学習の充実のために、管楽器３種類、弦楽器３種類、打楽器１種類が取り扱われ、奏法ごとに配列されている。「深めてみよう」や「音のスケッチ」「発展」などで、器楽と創作、鑑賞を関連付けながら学習できるように示されている。<br>(2) 音楽文化と豊かに関わり、音楽を愛好する心情を育むために、友達と一緒に演奏する楽しさや喜びを味わえるよう、それぞれの楽器の特徴を生かしたアンサンブル曲の充実が見られる。 |
| 27　教　芸 | (1) 器楽学習の充実のために、管楽器３種類、弦楽器３種類、打楽器２種類が取り扱われ、西洋楽器、和楽器の順で配列されている。育成を目指す力の「思考力・判断力・表現力」「知識」「技能」と対応する題材や教材が分かりやすく示されている。<br>(2) 音楽文化と豊かに関わり、音楽を愛好する心情を育むために、日常生活の中で触れる機会の少ない和楽器を演奏する楽しさや喜びを味わえるよう、生徒になじみのある楽曲の充実が見られる。 |

2　内容や指導の充実

〔観点２〕　主体的・対話的で深い学びを通して、目指すべき資質・能力を確実に身に付けさせるために、どのような工夫が見られるか。

| 発　行　者 | 概　　評 |
|---|---|
| 17　教　出 | (1) 生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るために、「話し合おう」というコーナーが設けられ、楽器の特徴について自分の考えをまとめ、意見が交流できるようになっており、対話を通して学びが深められるように工夫されている。<br>(2)生きて働く「知識・技能」の習得のために、学習に役立つ演奏や動画を試聴できる二次元コードや、焦点化した写真を示すといった工夫が見られる。また「合わせて演奏しよう」(「Let's Play！」「Let's　Try！」）の中から、学校や生徒の実態に応じて楽曲を選択できるようになっており、習得した知識・技能を活用することができるように工夫されている。<br>(3) 音楽的な「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、「表現の仕方を調べてみよう」のページが設けられ、共通点や相違点について考えて、特徴を理解することができるよう工夫されている。また、創作教材となる「音のスケッチ」では、学んだ楽器で旋律をつくったり、合奏したりする楽しさを味わえるような工夫が見られる。さらに、「深めてみよう」のページでは、関連する鑑賞教材を示す工夫が見られる。<br>(4) 「学びに向かう力・人間性等」の涵養を目指すために、「ストリート・ピアノ」のページで、音楽を通じて人と人とのつながりを生み出す取組を示し、生涯にわたって音楽への興味・関心を持ち続けられるような工夫が見られる。 |

| | |
|---|---|
| 27　教　芸 | (1) 生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るために、「学びのコンパス」というコーナーが設けられ、楽器の合わせ方や重なり方について自分の考えをまとめ、意見の交流を通して対話によって学びが深められるように工夫されている。<br>(2) 生きて働く「知識・技能」の習得のために、範奏や伴奏の音源が視聴できる二次元コード、奏法を確認できる写真などを示すといった工夫が見られる。また、細かく段階を踏んで技能習得ができるよう短い曲を設定している。「楽器でMelody」では、演奏する楽器を選択して習得した知識・技能を活用することができるような工夫が見られる。<br>(3) 音楽的な「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、各楽器の学習の導入で鑑賞曲を聴くことよって、楽器の特徴が理解できるよう工夫されている。また、創作教材である「My Melody」においては、学んだ楽器で旋律をつくり、表現する楽しさを味わえるような工夫が見られる。「アンサンブル」のページでは、様々なジャンルの楽曲が示されており、多様な表現力を育てられるような工夫が見られる。<br>(4) 「学びに向かう力・人間性等」の涵養を目指すために、巻頭ページにおいて音楽コラムを掲載し、音楽への興味・関心や様々な楽器を学び演奏することへの意欲を高めたりするような工夫が見られる。 |

3　利便性の向上

〔観点３〕　学習効果や使用上の利便性を高めるとともに生徒にとって分かりやすいという視点から、どのような工夫が見られるか。

| 発　行　者 | 概　　評 |
|---|---|
| 17　教　出 | (1) 生徒の学習への興味･関心を高めるために、巻頭ページでは、和楽器と世界の楽器の名手たちによる演奏写真が比較できるように掲載することで、楽器の種類を確認することができ、意欲を高めさせる工夫が見られる。<br>(2) 資料については、各楽器の演奏の仕方や姿勢が写真やイラストを用いて分かりやすく掲載されている。特に、太鼓については４ページを使用し、演奏例や種類、奏法が示されている。さらに、「吹く楽器の仲間たち」「弾く楽器の仲間たち」のページにおいて、世界の楽器を種類ごとに示す工夫が見られる。<br>(3) 個別最適な学びを可能にするために、教材に関連した学習に役立つ動画や音源を二次元コードの読み取りで視聴できるように工夫されていたり、既習事項を振り返ることができるページを示したりといった工夫が見られる。 |
| 27 教　芸 | (1) 生徒の学習への興味･関心を高めるために、巻頭ページでは、一流の演奏家の言葉と写真が掲載され、楽器を演奏することのきっかけと情熱を知ることで、音楽活動の楽しさをイメージすることができる工夫が見られる。<br>(2) 資料については、写真やイラストにおいて各楽器の演奏の仕方や姿勢が分かりやすく掲載されている。また、各二次元コードに読み込める動画や資料が明記されており、活用しやすくなるよう工夫されている。特に、様々な打楽器の奏法を動画で確認できるような工夫が見られる。<br>(3) 個別最適な学びを可能にするために、二次元コードの読み取りで学習に役立つ動画や音源を視聴できるようになっており、特に、練習曲の伴奏音源を読み込むことによって個人やグループごとの練習がしやすくなるような工夫が見られる。 |

4　地域の願いや思い、生徒の実態等

〔観点４〕　家庭や地域と連携した学習の推進とともに、生徒の確実な基礎・基本の定着という観点から、どのような工夫が見られるか。

| 発　行　者 | 概　　評 |
|---|---|
| 17　教　出 | (1) 南那珂地区の各中学校に配備されている箏の学習を推進するために、五線譜で示された練習曲で基本的な奏法を習得した後、様々な種類の奏法を取り入れた発展的な楽曲へと段階を追って習得できるように工夫されている。また、地域によっては神楽や祭りの音楽を受け継いでいる生徒もいることから、和太鼓や篠笛をはじめとする各楽器の名手からのメッセージが掲載され、活動への興味・関心を高める工夫がされている。<br>(2) 生徒の確実な基礎・基本の定着のために、各楽器の基本的な奏法について、演奏時の手元の写真が大きく提示され、生徒が視覚的に奏法を習得できるように工夫されている。また、二次元コードによる正しい音を的確に把握して演奏できるように工夫されている。 |
| 27　教　芸 | (1) 南那珂地区の各中学校に配備されている箏の学習を推進するために、五線譜と縦譜の両方で示された簡易な楽曲で基本的な奏法と様々な種類の奏法を習得するとともに、生徒になじみのある現代曲にもチャレンジできるように工夫されている。また、本県出身のギター奏者である大萩康司さんの写真をはじめ各楽器の名手からのメッセージ、豊富な種類の打楽器の奏法が掲載され、活動への興味・関心を高める工夫がされている。<br>(2) 生徒の確実な基礎・基本の定着のために、各楽器の基本的な奏法について、さまざまな角度からの演奏写真を提示し、生徒が俯瞰して学ぶことができるように工夫されている。また、二次元コードによる解説と動画を活用して演奏できるように工夫されている。 |

令和７年度使用

# 中学校用教科用図書研究資料

美　　術

令和６年７月

教科用図書南那珂採択地区協議会

1　教科目標の達成及び単元（題材）の構成・配列等

〔観点１〕　学習指導要領に示された教科の目標を達成するために、構成・配列等について、どのような工夫が見られるか。

| 発　行　者 | 概　　評 |
|---|---|
| 9　開隆堂 | (1) 美術科の目標を達成するために、絵画・彫刻領域、デザイン工芸領域、及びそれらを補完する学びの資料という大きな３つの内容で構成されており、多くの題材において表現と鑑賞を一体的に扱う工夫が見られる。観察をもとにした表現においては身近なものをスケッチするという平面表現から、同じ平面的な表現としてより高次な題材である人物画へと繋げられており、平面的な表現と立体的な表現を分け、それぞれを系統的に配列している。<br>(2) 造形的な創造活動を目指すために、生徒作品や制作過程の解説や造形的な視点を広げる鑑賞を取り入れ、生徒の発想や構想につなげることを意識した構成になっている。<br>(3) 感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を育てるために、「学びの資料」において、作品鑑賞や美術館での鑑賞の方法、展覧会の企画や展示の方法を学ぶことができるとともに、美術史から作品を読み解くなど学年の段階に応じて学んだ内容が深められるように構成されている。 |
| 38　光　村 | (1) 美術科の目標を達成するために、絵画・彫刻領域、デザイン工芸領域、及びそれらを補完する学習を支える資料（別冊資料が中心）という大きな３つの内容で構成されており、多くの題材において表現と鑑賞を一体的に扱う工夫が見られる。観察をもとにした表現においては、身近なものをスケッチするという平面表現から、同じ観察をもとにした立体的な表現へと繋げられており、平面的な表現と立体的な表現とを一体的に扱う工夫が見られる。<br>(2) 造形的な創造活動を目指すために、学習を支える資料の解説ページを設け、生徒が造形的な視点について理解し、表現方法を創意工夫することができるような構成になっている。<br>(3) 感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を育てるため、見開きの特設ページや和紙の質感を取り入れたページを設定することによって、生活や社会の中の美術や美術文化のよさと美しさを視覚的にも触覚的にも体感できるように構成されている。 |

| | |
|---|---|
| 116 日　文 | (1) 美術科の目標を達成するために、絵画・彫刻領域、デザイン工芸領域、及びそれらを補完する学びを支える資料という大きな３つの内容で構成されており、多くの題材において表現と鑑賞を一体的に扱う工夫が見られる。観察をもとにした表現においては、身近なものをスケッチするという平面表現から、同じ観察をもとにした立体的な表現へと繋げられており、平面的な表現と立体的な表現とを一体的に扱う工夫が見られる。<br>(2) 造形的な創造活動を目指すために、学習を支える資料の解説ページを設け、吹き出し等を用いて、表現に必要な発想や構想の手立てが具体的に配列された構成になっている。<br>(3) 感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を育てるために、美術作家以外の職種の方（シンガーソングライターやタレント等）の「学びの言葉」を掲載し、社会の中で美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力が育まれるように構成されている。 |

２　内容や指導の充実

〔観点２〕　主体的・対話的で深い学びを通して、目指すべき資質・能力を確実に身に付けさせるために、どのような工夫が見られるか。

| 発　行　者 | 概　　評 |
|---|---|
| 9　開隆堂 | (1) 鑑賞と表現活動の相互が効果的に活用できるよう、題材に応じて、キャラクターを生かし、具体的な学習のポイント、気づきや思い付きのヒントが示されているなど、「主体的・対話的で深い学び」を展開するための工夫が見られる。<br>(2) 内容や指導の充実のために、各題材の学習において、導入用の動画や技法や用具の使い方についての動画をＱＲコードで示し、知識・技能や制作過程が「美術の用語」のコーナーや図版でわかりやすく提示されている。巻末の「学びの資料」にも横断的に活用できる知識・技能が示されており、生きて働く「知識及び技能」を習得できるような工夫が見られる。<br>(3) 思考をより造形的に捉えるため、掲載作品とあわせて、「作者のことば」やアイデアスケッチなどを掲載されている。各巻末の「学びの資料」には発想・構想及び鑑賞の参考となる内容が提示されており、「思考力、判断力、表現力等」を育成できるような工夫が見られる。<br>(4) 生徒が主体的に学習に取り組むために、ＱＲコードを読み込むことで授業の導入から発想の広げ方、ふり返りまで活動を支援できるようになっている。各巻頭には美術を学ぶ意味などについて生徒に考えさせ、巻末は各学年及び中学校美術科の学習をふり返ることができる構成になっており、「学びに向かう力人間性等」を育成できるような工夫が見られる。 |

| | |
|---|---|
| 38　光　村 | (1) 鑑賞と表現活動の相互が効果的に活用できるよう、生徒の思考を促す問いかけが「ＰＯＩＮＴ」として示されるとともに、制作過程が見える「みんなの工夫」が掲載されており、「主体的・対話的で深い学び」を展開するための工夫が見られる。<br>(2) 内容や指導の充実のために、各題材の学習において、導入時に役立つ生徒作品例や作者の思いなどをＱＲコードで示し、その制作過程については図版で、技法等の横断的に活用できる知識・技能については、別冊資料やその中のＱＲコードで示している。生徒が必要に応じて参照できるように工夫されており生きて働く「知識及び技能」を習得できるような工夫が見られる。<br>(3) 思考をより造形的に捉えるため、多くの生徒作品や制作過程を掲載しており、生徒が自分事として意識できる配置がなされている。また、「作者の言葉」やアイデアスケッチなどから生徒の価値観など、「思考力、判断力、表現力等」を育成できるような工夫が見られる。<br>(4) 生徒が主体的に学習に取り組むために、表現と鑑賞の活動が見出しで示され、学びの流れを明確にしている。また、生徒が親しみやすい作品を選定されていたり、鑑賞に対する問いかけが設定されていたりするなど、生徒が意欲をもって主体的に学習に取り組み、「学びに向かう力、人間性等」を育成できるような工夫が見られる。 |

| | |
|---|---|
| 116　日　文 | (1) 鑑賞と表現活動の相互が効果的に活用できるよう、実際の授業の画像が用いられ、対話を通して思考力を働かせ、学びを深めることができるような工夫など、「主体的・対話的で深い学び」を展開するための工夫が見られる。<br>(2) 内容や指導の充実のために、各題材の学習において、導入や制作過程についての動画をＱＲコードで示している。また「造形的な視点」や「表現のヒント」を示すことで、生徒の活動の充実を図り、材料や用具の取り扱い等の横断的に活用できる知識・技能については、巻末の「学びを支える資料」にまとめて示すなど、生きて働く「知識及び技能」を習得できるような工夫が見られる。<br>(3) 思考をより造形的に捉えるため、完成された作品や写真、アイデアスケッチなどを用い、発想・構想が、鑑賞と表現の双方向から取り組める工夫がなされている。また、作者の言葉を掲載し、より発想・構想を広げ深め、「思考力、判断力、表現力等」を育成できるような工夫が見られる。<br>(4) 生徒が主体的に学習に取り組むために、各巻で題材のページの見方や使い方を説明している。また、学習の内容ごとに目標やねらいを分かりやすく示しており、さらに美術を通して、これからの生活や生き方に繋がるような言葉や話が紹介されているなど、「学びに向かう力、人間性等」を育成できるような工夫が見られる。 |

3　利便性の向上

〔観点３〕　学習効果や使用上の利便性を高めるとともに生徒にとって分かりやすいという視点から、どのような工夫が見られるか。

| 発　行　者 | 概　　評 |
|---|---|
| 9　開隆堂 | (1) 表紙は、立体・絵画の代表作品が掲載され、生徒が触覚から関心が高まるような特殊加工を施し、教科書への興味・関心をもたせる工夫がされている。巻頭には、今までの学習が、今後の学びとどうつながるか振り返り、生徒の学習の目的や意義を確認するための問いや解説が、思考に応じた吹き出しによって表現され、生徒の主体性を高める工夫がされている。補助資料としては、巻末に「学びの資料」を設け、表現や鑑賞の参考となる資料に加え、「著作権を知ろう」や「持続可能な未来へ」についてスポットを当てて集約されるなど、３年間を通し、２分冊構成の教科書で学びの支援が図られている。<br>(2) 学習効果や利便性の向上のために、各題材において、はじめに学力の３つの要素に対応した学びの目標が示されている。導入段階では表現につながる鑑賞作品が掲載されており、ＱＲコードにより発想や構想、表現方法への手がかりを得たり、多 |

| | |
|---|---|
| | くの生徒作品を鑑賞したりすることができるようになっている。また、「知識・技能」「発想・構想」「鑑賞」の小見出しによって、その活動でどのような資質や能力を目指すのかが示されているなど学習効果や使用上の利便性を高める工夫が見られる。 |
| 38　光　村 | (1) 表紙は、西洋・日本の代表作品が掲載され、裏面のバーコード表現に関連したイラストが描かれるなど教科書への興味･関心をもたせる工夫がされている。巻頭には、２巻ともに共通して「うつくしい！」という「詩」と共に、美術と身近な生活や社会とのつながりを気づかせ、さらに、教科書を活用する手立てとして、各題材ページの見方についての解説を示し、生徒の主体性を高める工夫がされている。補助資料としては、別冊及び巻末にて、描く、つくるにおける材料・用具の使い方や表現方法、写真、映像、発想・構想、形・色・光、色について集約されており、３年間を通し、２分冊構成の教科書で学びの支援が図られている。<br>(2) 学習効果や利便性の向上のために、各題材において、はじめに学力の３つの要素に対応した学びの目標が示されている。導入段階では表現につながる鑑賞作品が掲載され、ＱＲコードによって多くの生徒作品を鑑賞できるようになっている。画像や吹き出しによって制作過程が示され、題材によっては、ＱＲコードによって、その作品への作者の思いを知ることができるようになっている。また、他教科とのつながりが理解できるようなコラムが設けられるなど学習効果や使用上の利便性を高める工夫が見られる。 |
| 116　日　文 | (1) 表紙は、西洋・日本・現代美術の代表作品が掲載され、表紙から裏表紙にわたって作品が掲載されており､オリエンテーションの鑑賞教材としても活用できるなど教科書への興味･関心をもたせる工夫がされている。また、３年間の発達の段階に合わせて系統立てられた学年ならではの題材が工夫され､生徒の主体性を高める工夫がされている。補助資料としては、巻末に「学びを支える資料」を設け、各学年のねらいに関連した知識及び技能の習得に加え、「多様性と共同制作」「社会と関わる美術」についてスポットを当てて集約されるなど、３年間を通して、３分冊構成の教科書で学びの支援が図られている。<br>(2) 学習効果や利便性の向上のために、各題材において、はじめに学力の３つの要素に対応した学びの目標が示されている。導入段階では表現につながる鑑賞作品が掲載されており、ＱＲコード内の動画を視聴することによって活動内容や目的をイメージできるようになっている。また、表現段階では「表現のヒント」によって発想を広げたり、「造形的な視点」によって |

| | |
|---|---|
| | 思考を焦点化したりすることで、授業の流れを捉えやすくするなど学習効果や使用上の利便性を高める工夫が見られる。 |

4　地域の願いや思い、生徒の実態等

〔観点４〕　家庭や地域と連携した学習の推進とともに、生徒の確実な基礎・基本の定着という視点から、どのような工夫が見られるか。

| 発　行　者 | 概　　評 |
|---|---|
| 9　開隆堂 | (1) 家庭や地域と連携した学習の推進のために、地域に根ざした伝統工芸品を紹介するなど、地域に目を向けさせるための工夫が見られる。<br>(2) 生徒の確実な基礎・基本の定着のために、巻頭において、近年公開された生徒にもなじみの深いアニメーション映画を紹介することで、自分の心の中にあるものを表現することの大切さや、それに伴う喜び、そして、それを享受することの喜びが人の心を豊かにすることを説き、そのことが、漫画と他の美術との関わりのように、人にとって、時代を超えて脈々と息づく大切な営みであり、文化の継承でもあることを訴えている。美術を、「心躍らせるもの」、「人生を彩り、人の心や社会を豊かにするもの」と捉えることができる。 |
| 38　光　村 | (1) 家庭や地域と連携した学習の推進のために、地域の美術館や芸術祭を紹介するなど、地域に目を向けさせるための工夫が見られる。<br>(2) 生徒の確実な基礎・基本の定着のために、巻頭において「美しい！」という詩とともに、美しいものを探す中学生の姿や身近に存在する美しい風景を紹介し、身近にある美しいものに気づき、それを心にインプットするところから美術がスタートすることを説いている。さらに、先ほどの詩の続きを紹介しながら表現することの大切さと、時に、ＳＤＧｓのような社会問題の解決にさえ力を発揮し得る表現の多様性やメッセージ性について訴えている。美術を、「心つなぐもの」、「人生に寄り添い、人の心や社会に希望の灯を灯すもの」と捉えることができる。 |
| 116　日　文 | (1) 家庭や地域と連携した学習の推進のために、地域の祭や伝統工芸品を紹介するなど、地域に目を向けさせるための工夫が見られる。<br>(2) 生徒の確実な基礎・基本の定着のために、巻頭において、点描技法で描かれた名作を掲載している。点描技法は視覚認識や色彩理論にまで踏み込んだ技法であり、構図、色彩、光を緻密に計算することで生まれた点描技法の作品を紹介することで、美術ならではの気づきやものの見方、考え方の大切さを説いている。個性に裏付けられた表現の多様性や、問題を提起する力 |

| | |
|---|---|
| | や新たな価値の創造といった美術のもつ可能性について訴えている。美術を、「心閃かせるもの」、「人生を切り開き、人の心や社会を未来へと導くもの」と捉えることができる。 |

令和７年度使用

# 中学校用教科用図書研究資料

保健体育

令和６年７月

教科用図書南那珂採択地区協議会

1　教科目標の達成及び単元（題材）の構成・配列等

〔観点１〕　学習指導要領に示された教科の目標を達成するために、構成・配列等について、どのような工夫が見られるか。

| 発　行　者 | 概　　評 |
|---|---|
| 2　東　書 | (1) 保健体育科の目標を達成するために、学年ごとに「保健編」の２つの章と「体育編」の１つの章でまとめてあり、特に学習内容と関わりある時期に学ぶことができるような構成の工夫が見られる。<br>(2) 単元の配列に関しては、１単位時間の流れとして「見つける」「学習課題」「課題の解決」「広げる」の４段階での学習過程とされており、生徒が見通しをもって学習を進められ、さらに「巻末スキルブック」を設け、実生活で活用できるような工夫が見られる。 |
| 4　大日本 | (1) 保健体育科の目標を達成するために、学年ごとに「体育編」の１つの章と「保健編」の２つの章でまとめてあり、多くの口絵を設けることで、生徒の興味・関心を高める効果的な構成の工夫がなされている。<br>(2) 単元の配列に関しては、小単元ごとに「つかもう」「話し合ってみよう等」「活用して深めよう」の３段階での学習過程とされており、生徒が見通しをもって学習を進められ、章末には「学びを活かそう」で身近な日常生活に活用を促すような工夫が見られる。 |
| 50　大修館 | (1) 保健体育科の目標を達成するために、学年ごとに「体育理論」の１つの章と「保健」の２つの章でまとめてあり、さらに、３年間における各学年の保健の学習時間が均等になるような構成の工夫が見られる。<br>(2) 単元の配列に関しては、小単元ごとに「つかむ」「身につける・考える」「まとめる・振り返る」の３段階での学習過程とされており、生徒が見通しをもって学習を進められ、各章末には「章のまとめ」を設け、評価の３観点による内容の理解や定着、活用を促すような工夫が見られる。 |

| | |
|---|---|
| 224　学　研 | (1) 保健体育科の目標を達成するために、学年ごとに「体育編」の１つの章と「保健編」の２つの章でまとめてあり、学年毎に学習したことを振り返ることができるような構成の工夫がなされている。<br>(2) 単元の配列に関しては、小単元ごとに「ウォームアップ」「エクササイズ」「学びを生かす」の３段階での学習過程とされており、生徒が見通しをもって学習を進められ、「探究しようよ」で課題解決学習を取り入れ、より深まった学びにつながるような工夫が見られる。 |

２　内容や指導の充実

〔観点２〕　主体的・対話的で深い学びを通して、目指すべき資質・能力を確実に身に付けさせるために、どのような工夫が見られるか。

| 発　行　者 | 概　　評 |
|---|---|
| ２　東　書 | (1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、単元冒頭にある「見つける」では、日常経験や既習事項を基に課題を捉えさせることで、主体的に解決に取り組むことができる工夫が見られる。<br>(2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、「課題の解決」では、段階的な発問を設け、資料や２次元コードを基に確認することや考えること、話し合う活動を通して理解を深められる工夫が見られる。<br>(3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、小単元ごとに「活用する」「広げる」を設定し、学習を通して習得した知識・技能を活用し、再考するなどの実践力を育む工夫が見られる。 |
| ４　大日本 | (1) 主体的･対話的で深い学びを展開させるために､「つかもう」､「やってみよう」又は「話し合ってみよう」、「活用してみよう」を設定し、この流れで学習を進められるような工夫が見られる。<br>(2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、本文と資料を分けて掲載している。また、大単元ごとに「学習のまとめ」で重要な言葉を掲載しており、二次元コードを設けて学びの定着を図る工夫が見られる。<br>(3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、章ごとに「学びを活かそう」を設定し、習得した知識・技能を活用して日常生活に活かせる実践力を育む工夫が見られる。 |

| | |
|---|---|
| 50　大修館 | (1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、単元冒頭にある「課題をつかむ」では、学習課題につながる気付きを促す導入活動を提示し、興味・関心をもたせ、課題の解決に取り組む工夫が見られる。<br>(2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、覚えておきたい重要語句を「キーワード」として明示し、毎時間の学習の最後に、学びの定着を図る二次元コードを設けることで理解を深める工夫が見られる。<br>(3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、小単元ごとに「学習のまとめ」を設定し、自己の生活を見直し、自己の課題を修正できる実践力を育む工夫が見られる。 |
| 224 学　研 | (1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、単元冒頭にある「ウォームアップ」では、学習の課題に関連した身近な課題に気付かせ「エクササイズ」においてより深く考えさせる工夫が見られる。<br>(2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、各単元に関連する「章デジ」を設定し、二次元コードを活用することで、理解が深まるよう促し、身近な日常生活に生かせるような工夫が見られる。<br>(3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、小単元ごとに「学びを生かす」を設定し、学んだことを活用し、今後の生活に生かすための実践力を育む工夫が見られる。 |

3　利便性の向上

〔観点３〕　学習効果や使用上の利便性を高めるとともに生徒にとって分かりやすいという視点から、どのような工夫が見られるか。

| 発　行　者 | 概　　評 |
|---|---|
| 2　東　書 | (1) 学習効果や使用上の利便性については、1単位時間の内容を見開き２ページに収め、各ページ左側本文、右側資料となっており、本文の内容に関する資料をすぐに確認できるなど、視線に配慮し、知識を確認するための資料の活用がしやすい工夫が見られる。<br>(2) 生徒にとっての分かりやすさについては、読みやすい文字の大きさや行間に配慮し、多彩なデジタルコンテンツを必要に応じて活用できる等、使いやすく分かりやすい工夫が見られる。 |
| 4　大日本 | (1) 学習効果や使用上の利便性については、1単位時間の内容を見開き２ページに収め、本文を左ページ、本文に対応した資料を右ページに区切って掲載することで、本文を裏付け、知識を深める活動や資料から考察・推察する活動など幅広い授業を展開することができるような工夫が見られる。<br>(2) 生徒にとっての分かりやすさについては、はっきりとした色使いや統一したレイアウト、折り込み資料の採用等、使いやすく分かりやすい工夫が見られる。 |
| 50　大修館 | (1) 学習効果や使用上の利便性については、1単位時間の内容を見開き２ページに収め、学習の流れに沿って学習内容と関連する４種類のデジタルコンテンツを掲載することで、目的に応じて効果的にICTを活用して学習を進めていくことができる工夫が見られる。<br>(2) 生徒にとっての分かりやすさについては、本文が中央に配置されるようイラストや写真の配置、資料を囲む線のデザイン等、使いやすく分かりやすい工夫が見られる。 |
| 224　学　研 | (1) 学習効果や使用上の利便性については、1単位時間の内容を見開き２ページに収め、視覚的にゆったりとした紙面になっており、大きな判型の資料を掲載することで認識しやすく、本文の内容を資料から読み取りやすいなど学びやすさを高める工夫が見られる。<br>(2) 生徒にとっての分かりやすさについては、本文にユニバーサルデザインフォントを採用し、イラスト等の配色を淡い色に統一することで、使いやすく分かりやすい工夫が見られる。 |

4　地域の願いや思い、生徒の実態等

〔観点４〕　家庭や地域と連携した学習の推進とともに、生徒の確実な基礎・基本の定着という観点から、どのような工夫が見られるか。

| 発　行　者 | 概　　評 |
|---|---|
| 2　東　書 | (1) 地域と連携した学習内容として、単元の「広げる」で、自分の通学路や地域の状況を振り返り、改善点を考えさせる学習が設定されており、単元で学習した内容を、命を守るための行動に繋げる工夫が見られる。<br>(2) 生徒の確実な基礎・基本の定着のために、学習課題に『キーワード』を示し、『見つける』や『活用する』に、それぞれ直接ページに記入できるように配置されるなど工夫がされている。 |
| 4　大日本 | (1) 地域と連携した学習内容として、単元の「地域で取り組みたい活動」をマーク付きで示しており、住んでいる地域で行われている活動を知り、自分がどのように行動すればよいか考えさせるための工夫が見られる。<br>(2) 生徒の確実な基礎・基本の定着のために、各章末に『重要な言葉』がまとめられており、同頁内にある２次元コード『まとめの問題』との活用が図られる工夫がされている。 |
| 50　大修館 | (1) 地域と連携した学習内容として、単元の「課題をつかむ」で、自分の暮らす身近なところでの具体例を考えさせる学習が設定されており、単元で学習した内容を実生活に生かすための工夫が見られる。<br>(2) 生徒の確実な基礎・基本の定着のために、各頁にある２次元コードによりデジタル教材と学習のまとめを活用するなどの工夫がされている。 |
| 224　学　研 | (1) 地域と連携した学習内容として、単元の「学びを生かす」で、自分の住んでいる地域で行われている活動を調べる学習が設定されており、生徒が地域の活動に興味をもち、関わろうとする意欲を高める工夫が見られる。<br>(2) 生徒の確実な基礎・基本の定着のために、『学習の課題』において、【わかる】【考える】に生徒の学習の姿を示し、探究の課題を設定するなどの工夫がされている。 |

令和７年度使用

# 中学校用教科用図書研究資料

技術・家庭（技術分野）

令和６年７月

教科用図書南那珂採択地区協議会

1　教科目標の達成及び単元（題材）の構成・配列等

〔観点１〕　学習指導要領に示された教科の目標を達成するために、構成・配列等について、どのような工夫が見られるか。

| 発　行　者 | 概　　評 |
|---|---|
| 2　東　書 | (1) 技術科の目標を達成するために、内容ごとに「生活や社会を支える技術」「技術による問題の解決」「社会の発展と技術」の一連の流れの中で学習を進めることができるようにし、さらに技術の見方・考え方をマンガと連動した「最適化の窓」で気付かせるなどの工夫が見られる。 |
| 6　教　図 | (1) 技術科の目標を達成するために、内容ごとに「技術を見つめよう」「技術をいかそう」「未来をつくろう」という一連の流れの中で学習を進めることができるようにし、技術の見方・考え方を様々な立場の視点から見た問題解決で気付かせるなどの工夫が見られる。 |
| 9　開隆堂 | (1) 技術科の目標を達成するために、生活や社会の中にある技術に気付かせながら基礎・基本を習得させ、「問題解決→実習例→学習のまとめ」という一連の流れの中で学習を進めることができるようにし、技術の見方・考え方を身近な製品の特徴から気付かせるなどの工夫が見られる。 |

2　内容や指導の充実

〔観点２〕　主体的・対話的で深い学びを通して、目指すべき資質・能力を確実に身に付けさせるためにどんな工夫が見られるか。

| 発　行　者 | 概　　評 |
|---|---|
| 2　東　書 | (1)「知識・技能」を習得するために、作業の手順、植物の育成方法、工具の使用法等を写真や動画にまとめ、「やってみよう」で実際に体験し知識・技能の習得を確認する工夫が見られる。<br>(2)「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、最初に５段階の問題解決学習の流れを詳しく説明し、製作の例を３つ提示してある。また、「technology」のワークシートのページで協働学習をしやすくする工夫が見られる。<br>(3) 学びに向かう力・人間性を育成するために、「技術の匠」のページにおいて最先端の仕事を紹介することで、興味・関心を高め、将来の職業の選択や生き方との関わりについて考えることができるような工夫が見られる。 |
| 6　教　図 | (1)「知識・技能」を習得するために、作業の手順、植物の育成方法、工具の使用法等を写真や動画にまとめ、「ふり返る」で知識・技能の習得を確認する工夫が見られる。<br>(2)「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、４段階の問題解決学習の流れを４コマ漫画でまとめてあり、製作の例を２つ提示してある。また、「未来をつくろう」で技術のプラス面、マイナス面を示し、協働学習をしやすくする工夫が見られる。<br>(3) 学びに向かう力・人間性を育成するために、「技ビト」のページにおいて伝統・技能を紹介することで、興味・関心を高め、将来の職業の選択や生き方との関わりについて考えることができるような工夫が見られる。 |
| 9　開隆堂 | (1)「知識・技能」を習得するために、作業の手順、植物の育成方法、工具の使用法等を写真や動画にまとめ、「ＣＨＥＣＫ」で知識・技能の習得を確認する工夫が見られる。<br>(2)「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、最初に４段階の問題解決学習の流れを説明し、製作の例を数多く提示してある。また、「やってみよう」の発問で協働学習をしやすくする工夫が見られる。<br>(3) 学びに向かう力・人間性を育成するために、「interview」のページにおいて仕事の特徴ややりがいを紹介することで、興味関心を高め、将来の職業の選択や生き方との関わりについて考えることができるような工夫が見られる。 |

3　利便性の向上

〔観点３〕　学習効果や使用上の利便性を高めるとともに生徒にとって分かりやすいという視点から、どのような工夫が見られるか。

| 発　行　者 | 概　　評 |
|---|---|
| 2　東　書 | (1) 学習効果や使用上の利便性及び生徒の興味関心を高めるために、必要な技能をまとめた「TECH　Lab」コーナーで写真や図版を用いたり、二次元コードから作業動画などのデジタルコンテンツを活用できるようにするなどの工夫が見られる。 |
| 6　教　図 | (1) 学習効果や使用上の利便性及び生徒の興味関心を高めるために、問題解決学習で生徒が自分で調べられるように、別冊「スキルアシスト」を作成したり、全ページで二次元コードから技能動画などのデジタルコンテンツを活用できるようにするなどの工夫が見られる。 |
| 9　開隆堂 | (1) 学習効果や使用上の利便性及び生徒の興味関心を高めるために、製作等の手順に沿って分かりやすく作業を進めることができるように生徒のキャラクターを登場させたり、二次元コードから動画や資料などのデジタルコンテンツを活用できるようにするなどの工夫が見られる。 |

4　地域の願いや思い、生徒の実態等

〔観点４〕　家庭や地域と連携した学習の推進とともに、生徒の確実な基礎・基本の定着という観点から、どのような工夫が見られるか。

| 発　行　者 | 概　　評 |
|---|---|
| 2　東　書 | (1)　地域と連携した学習内容として、「技術の匠」や「伝統文化」が設定されており、生徒が「すごいぞ！技術」について学ぶことを通して地域への愛着をはぐくむための工夫が見られる。<br>(2)　生徒の確実な基礎・基本の定着のために「目標」が配置されたり、「学習のまとめ」で習熟が図られたりできるように工夫されている。 |
| 6　教　図 | (1)　地域と連携した学習内容として、「共生」や「伝統文化」が設定されており、生徒が「夢をかなえる技術」を学ぶことを通して地域への愛着をはぐくむための工夫が見られる。<br>(2)　生徒の確実な基礎・基本の定着のために「めあて」が配置されたり、「編のまとめ」で習熟が図られたりできるように工夫されている。 |
| 9　開隆堂 | (1)　地域と連携した学習内容として、「Interview」や「伝統文化」が設定されており、生徒が「これからの技術」について学ぶことを通して地域への愛着をはぐくむための工夫が見られる。<br>(2)　生徒の確実な基礎・基本の定着のために「学習の課題」が配置されたり、「学習のまとめ」で習熟が図られたりできるように工夫されている。 |

令和７年度使用

# 中学校用教科用図書研究資料

技術・家庭（家庭分野）

令和６年７月

教科用図書南那珂採択地区協議会

1　教科目標の達成及び単元（題材）の構成・配列等

〔観点１〕　学習指導要領に示された教科の目標を達成するために、構成・配列等について、どのような工夫が見られるか。

| 発　行　者 | 概　　評 |
|---|---|
| 2　東　書 | (1) 家庭科の目標を達成するために、「未来につながる家庭分野」「食生活」「衣生活」「住生活」「消費生活と環境」「私たちの成長と家族・地域」「生活の課題と実践」の順で自立から共生へのストーリーにすることで、家庭分野の学びと生活がリンクし、学びが深まるような工夫が見られる。<br>(2) 構成・配列については、「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせることの必要性について、１編１章の「家庭分野のガイダンス」で具体例を示して確実に意識できるようにしたり、各編の導入の見開きページでも再確認したりして、よりよい生活の実現に向けて、生活を創造しようとする力を育むことができるような工夫が見られる。 |
| 6　教　図 | (1) 家庭科の目標を達成するために、学習指導要領に沿った構成になっている。知識及び技能を身に付けるための「見つめる」「学ぶ」や思考力・判断力・表現力を養うための「学びを生かそう」を繰り返す問題解決的な学習を通して、資質・能力が確実に身に付くような工夫が見られる。<br>(2) 構成・配列については、章の初めで、自分の生活を見つめながら、「自立度チェック」で自分の状況を確認し、章の終わりの「学びを生かそう」で、今後取り組みたいことを考えさせることで、章での学びとこれからの暮らしをつなぎ、社会の一員として協働して生きる力を身に付けることのできる工夫が見られる。 |
| 9　開隆堂 | (1) 家庭科の目標を達成するために、自己と自分を取り巻く環境や、「これまで」「現在」「これから」の時間軸等、全体を俯瞰した多様な視点から学習を捉えさせることで、生活の営みに係る見方・考え方を働かせることができるような構成の工夫が見られる。<br>(2) 構成・配列については、導入から振り返りまで中学生が体験しがちなエピソードや、学習者の思考を揺さぶる問いを吹き出しで示し、より自分事として問題を見つけたり、解決に努めたりして、よりよい生活の実現に向けて、自ら考え判断していけるような力を身に付けることのできる工夫が見られる。 |

２　内容や指導の充実

〔観点２〕　主体的・対話的で深い学びを通して、目指すべき資質・能力を確実に身に付けさせるために、どのような工夫が見られるか。

| 発　行　者 | 概　　評 |
|---|---|
| ２　東　書 | (1) 主体的・対話的で深い学びを展開するために、「考えてみよう」「やってみよう」などの活動を数多く取り上げ、主体的に調べたり、友達と協働して比較検討し、発展させるためのヒントを設けたりするなど、対話的に学ぶ工夫が見られる。また、チャートやウェビング、グルーピングなどの思考ツールを活用することで、個人思考や集団思考を効果的に整理し、まとめていくことで深い学びに向かうよう工夫されている。<br>(2) 生活の自立に必要な「知識及び技能」を習得させるために、「学習のまとめ」では、知識及び技能の振り返りの内容が多く、「いつも確かめよう」には基礎的な技能をまとめ、家庭でも実践しやすい難易度の低い実習例を取り上げるなど、デジタル補助教材とあわせて繰り返し知識及び技能の定着を図ることができるよう工夫されている。<br>(3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、学習のまとまりごとの「まとめよう」や、各編末の「学習のまとめ」に「生活に生かそう」を設け、生徒が学習したことを自分自身の生活に生かせるような工夫が見られる。<br>(4) 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養できるように、「プロに聞く」や、巻末に「学んだことを社会に生かす」で、将来を見据えた職業観、勤労観を育成する工夫が見られる。 |

| | |
|---|---|
| 4 教　図 | (1) 主体的・対話的で深い学びを展開するために、「話し合ってみよう」「調べてみよう」など身近な話題をもとに、多数掲載されたワークを活用し実践的・体験的な活動を通して主体的に学ぶ工夫が見られる。また、すべての内容を問題解決的な学習の流れで進めることができるので、課題の解決から新たな課題の発見につなぐ繰り返しの学びによって、生活を工夫し創造する力が身に付く深い学びになるよう工夫されている。<br>(2) 生活の自立に必要な「知識及び技能」を習得させるために、重要語句の強調表記や編ごとのキーワードを提示するとともに、コンテンツを活用しながら実感を伴って学ぶことができる。また、実習題材では「私のアレンジ」を紹介し、自分なりの家庭実践につなぐ意欲をもたせることで、基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図るよう工夫されている。<br>(3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、各編末に「学びを生かそう」を設定し、学びの中から問題を発見し、課題を設定して解決できるように学習の例を複数示し、記録レポートを活用しながら、思考し表現できるように工夫されている。<br>(4) 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養できるように、「センパイに聞こう」で、家庭分野の学びの先にある自分の未来を描き、実現のために生活をよりよくしようとする態度を育成する工夫が見られる。 |

| | |
|---|---|
| 9　開隆堂 | (1) 主体的・対話的で深い学びを展開するために、学習のまとまりごとに見通しがもてる目標を設定し、生活の中から課題を見つけて「何を学ぶか」を明確にして主体的に取り組める工夫が見られる。また、生徒同士で対話や意見を交換しやすいような身近な話題を学習活動に多く取り入れ、対話的な学習を進めながら自らの考えを広げ、「発展」のページも活用して学習を深められるような工夫が見られる。<br>(2) 生活の自立に必要な「知識及び技能」を習得させるために、内容を厳選して的確に記述し、また、調理実習では「調理方法 Q&A」を取り上げ、科学的根拠に基づいた理解を深めることができるように工夫されている。さらに、「生活の課題と実践」を巻末に項目を立て、学習で習得した知識及び技能を実生活で活用しながら定着を図ることができるよう工夫されている。<br>(3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、自分事として捉えた課題をもとに学習を進め、編末の「学習のまとめ」では、記述を含む振り返りの問題を設定し、自らの考えをまとめ、表現する力をつけることができるような工夫が見られる。<br>(4) 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養できるように、「先輩からのエール」で、生活が様々な職業・人によって成り立っていることを理解し、将来の進路選択に生かす態度を育成する工夫が見られる。 |

3　利便性の向上

〔観点３〕　学習効果や使用上の利便性を高めるとともに生徒にとって分かりやすいという視点から、どのような工夫が見られるか。

| 発　行　者 | 概　　評 |
|---|---|
| 2　東　書 | (1) 学習効果や使用上の利便性については、編の初めのダイナミックな写真や折り込みページを用いて視覚的な効果で学習を進めることができるように工夫されている。また、動画やシミュレーション、ワークシートなど教科書と連動して利用できる多種多様な QR コンテンツは Web ページから無料配信され、授業だけでなく家庭でも活用できるようになっており、学習を主体的に進められるよう工夫されている。<br>(2) 生徒にとっての分かりやすさについては、学習案内のキャラクターや中学生の意見に共感するキャラクター、見方・考え方のヒントを出すキャラクターによって、生徒が学習を身近に感じながら意欲的に取り組むように工夫されている。 |
| 4　教　図 | (1) 学習効果や使用上の利便性については、文字と資料のバランスを考え、本文に沿って必要な図表や写真が適切に配置され、学びを助ける効果的なイラストも多く示され理解しやすい工夫がされている。また、予習や復習に活用したり体験的な学びをサポートしたりする二次元コードのコンテンツには全てタイトルが付いているので活用しやすく、学習を主体的に進められるよう工夫されている。<br>(2) 生徒にとっての分かりやすさについては、各学習の「見つめる」段階で、登場人物が日常生活の会話のようなせりふを言う一コマ漫画を配置して問題提起をすることで、生徒一人一人が学習に関心をもてるよう工夫されている。 |
| 9　開隆堂 | (1) 学習効果や使用上の利便性については、技能面の写真が詳細で分かりやすく表現され、細部については拡大写真やイラストを添えたり、目には見えない栄養素なども科学的に可視化したりすることによって、見方・考え方を広げながら理解が深まるような工夫がみられる。また、学習内容に QR マークを付けることで豊富なコンテンツから、取捨選択して主体的に活用できるよう工夫されている。<br>(2) 生徒にとっての分かりやすさについては、学習者である中学生の等身大のキャラクターに本音を言わせることで、疑問やヒントを投げかけ、生徒が共感したり自分自身を再度見つめたりして学習に取り組みやすいよう工夫されている。 |

4　地域の願いや思い、生徒の実態等

〔観点４〕　家庭や地域と連携した学習の推進とともに、生徒の確実な基礎・基本の定着という観点から、どのような工夫が見られるか。

| 発　行　者 | 概　　評 |
|---|---|
| 2　東　書 | (１) 家庭や地域との連携が図られるように、「考えてみよう」で地域の中で自分たちが考えてできることなどを紹介して、家庭や地域での実践を促す手立てが見られる。さらに日本各地の文化を「資料」等のコーナーで紹介して、和食の調理法から各地の食文化等を理解できるような工夫が見られる。<br>(２) 生徒の確実な基礎・基本の定着のために、単元末の「学習のまとめ」で学習内容を振り返り習熟が図られるように工夫されている。 |
| 6　教　図 | (１) 家庭や地域との連携が図られるように、「学びを生かそう」で家族・家庭や地域とのかかわりなどを紹介して、家庭や地域での実践を促す手立てが見られる。さらに日本各地の文化を「やってみよう」のコーナーで紹介して、和食の調理法から各地の食文化等を理解できるような工夫が見られる。<br>(２) 生徒の確実な基礎・基本の定着のために、単元末の「学習のふり返り」で学習内容を振り返り習熟が図られるように工夫されている。 |
| 9　開隆堂 | (１) 家庭や地域との連携が図られるように、「中学生の取り組み」で多様な人々が暮らす地域などを紹介して、家庭や地域での実践を促す手立てが見られる。さらに日本各地の文化を「伝統文化」のコーナーで紹介して、受け継がれた食文化から各地の食文化等を理解できるような工夫が見られる。<br>(２) 生徒の確実な基礎・基本の定着のために、単元末の「学習のまとめ」で学習内容を振り返り習熟が図られるように工夫されている。 |

令和７年度使用

# 中学校用教科用図書研究資料

英　　語

令和６年７月

教科用図書南那珂採択地区協議会

1　教科目標の達成及び単元（題材）の構成・配列等

〔観点１〕　学習指導要領に示された教科の目標を達成するために、構成・配列等について、どのような工夫が見られるか。

| 発　行　者 | 概　　評 |
|---|---|
| 2　東　書 | (1) 単元の構成・配列等に関しては、各Unitを「扉」「Part」「Read and Think」「Unit Activity」などで構成し、複数の単元のまとめである「Stage Activity」に向けて、スモールステップで積み上げてゴールにつなぐ構成となっている。特に、「扉」では、単元を貫く問いを通して題材への興味を高め、「Unit Activity」では、各パートの「Activity」で用いた表現を生かして、目的・場面・状況を意識した言語活動に取り組む工夫が見られる。 |
| 9　開隆堂 | (1) 単元の構成・配列等に関しては、各Programを「とびら」「Scenes」「Tuning in」「Part」「Review & Retell」「Action」「英語早わかり」で構成し、新出表現を繰り返し取り扱うことで確実な基礎・基本の定着が期待される。特に、「Scenes」では、マンガ形式や朱書きで新出表現が導入されており、巻末のCAN-DOリストが「とびら」に示されている表現とリンクしていることで、自身が１年間を通して身に付けた表現が分かるという工夫が見られる。 |
| 15　三省堂 | (1) 単元の構成・配列等に関しては、各Lessonを「とびら」「Scene」「Goal Activity」で構成し、「Scene」で学習した内容を活用する「Goal Activity」が設定され、さらに複数のLesson毎に統合的な言語活動に取り組む「Project」が設定されていることで、段階的に学習できる。特に、「とびら」では、学習の見通しを立て、題材やテーマへの興味・関心を高めたり、「Small Talk Plus」では、即興で話す活動を通して表現力を高めたりすることができる工夫が見られる。 |
| 17　教　出 | (1) 単元の構成・配列等に関しては、各Lessonを「扉」「Part」「Task」「Grammar」「Tips」で構成し、「Tips」では、具体的な場面での活用を想定したコツが散りばめられており、実生活で生きて使える英語の能力を伸ばすことができる。特に、「Activities Plus」では、即興で話す力を身に付けさせたり、「Project」では、ペアやグループなどで協働しながら、４技能を使って発信する活動を通して表現力を高めたりする工夫が見られる。 |

| | |
|---|---|
| 38　光　村 | (1) 単元の構成・配列等に関しては、各Unitを「扉」「Part」「Goal」で構成し、「読む」「聞く」「書く」「話す（やり取り、発表）」の様々な領域における言語活動が準備されており、繰り返し英語を使いながら知識・技能の習得を図ることができる。特に、各Unitと帯教材「Story Retelling」を並行して学習することで、即興で話す力を高めたり、「Goal」では、登場人物になりきって発信する活動を通して表現力を高めたりする工夫が見られる。 |
| 61　啓林館 | (1) 単元の構成・配列等に関しては、各Unitを「とびら」「Part」「Read / Listen & Think」「Think & Speak / Write」「Let’s シリーズ」で構成し、使用する領域・技能が、単元で扱う題材や言語材料に合わせて設定されており、場面に応じた英語力を育成できる。特に、「Let’s シリーズ」では、各領域の活動がバランスよく設定され、実生活に即したコミュニケーション能力を高めたり、必要な情報、概要、要点を捉えるためのまとまりのある英文に触れさせたりする工夫が見られる。 |

2　内容や指導の充実

〔観点２〕　主体的・対話的で深い学びを通して、目指すべき資質・能力を確実に身に付けさせるために、どのような工夫が見られるか。

| 発　行　者 | 概　　評 |
|---|---|
| 2　東　書 | (1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、「単元を貫く問い」である「Unit Question」を設定し、各パートのスモールステップの「Activity」と「Unit Activity」に取り組むことで、単元を通して思考を深めていくといった工夫が見られる。<br>(2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、「Unit」の活動目標が明確に示してあり、学習する前にPreviewを聞くことで、目的・場面・状況を想起しやすくしている。「Read and Think」ではまとまった文を読み、自分の考えを表現することができる工夫が見られる。<br>(3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、Unit後の「Stage Activity」では、目的・場面・状況を明確に設定し、ペアやグループで伝え合う言語活動の設定の工夫が見られる。 |
| 9　開隆堂 | (1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、Scenesと本文の場面設定が統一され、かつ同じ言語材料を扱うことで使用場面が明確になっている。また、各Programにおける様々な言語活動で活用した表現を「Our Project」で統合的・発展的に活用する工夫が見られる。<br>(2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、「Scenes」ごとに日本語のタイトルがつけられており、新出表現を用いた対話の内容理解がしやすくなっている。単元末の「Review＆Retell」では、自分の言葉で表現する機会を設定するといった工夫が見られる。<br>(3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、Program後の「Our project」では、思考を整理するツールを用いて情報を整理し、言語活動につなげていく学習活動が段階的に設定されているという工夫が見られる。 |

| | |
|---|---|
| 15　三省堂 | (1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、「Small Talk」「Listen & Read」「Think about Yourself」などの言語活動が豊富に設定されている。また、対話のきっかけや理解の助けになるように資料としての写真や図、表などが多く用いられるなどの工夫が見られる。<br>(2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、目的や場面、状況に応じて、必要な情報を読み取る形で「Take Action!」が設定されている。「For Self-study」では、学習者が抱くであろう悩みについて学び方を提案し、個に応じた学びを支援するといった工夫が見られる。<br>(3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、Lesson後の「Project」では、生徒自身がテーマを決め、その後ペアやグループで協働しながら言語活動に取り組むことができるという設定の工夫が見られる。 |
| 17　教　出 | (1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、身近な話題から社会的な話題まで発達段階に応じた題材を扱っている。インターネット記事、落語など本文形態が多様で、さらに「Tips」では各技能を高めるコツを、「Useful Expressions」では日常的な場面で使える表現を紹介する工夫が見られる。<br>(2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、Partごとの「Think & Try!」では、会話の続きを考えながら演じさせ、単元末の「Read＆Try!」では、学んだことを説明する発展的な学習ができるようになっている。各Partにおいて小学校で学んだ単語も表記されるといった工夫が見られる。<br>(3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、Lesson後の「Project」では、具体的かつ豊富な例に触れることで生徒自身が最適な表現を選択し、言語活動につなげていくことができる設定の工夫が見られる。 |

| | |
|---|---|
| 38　光　村 | (1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、「Goal」の活動では、「Part」の学習の振り返りを促すヒントが示されている。また、巻末には各学年に応じた英語の学び方ガイドを掲載するなど、学習者が主体的に学びを振り返り、繰り返し活用できるなどの工夫が見られる。<br>(2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、帯活動に有効な「Story Retelling」が掲載され、写真・イラストやキーワードを用いて、自分の言葉で伝える機会が設定されている。各Unitでの表現活動に役立つ言語材料をまとめた「Active Grammar」がテーマごとに分類されるなどの工夫が見られる。<br>(3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、Unit後の「You Can Do It!」では、ヒントを与え過ぎないことで生徒自身の思考を深めさせ、言語活動につなげていくという設定の工夫が見られる。 |
| 61　啓林館 | (1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、各Unitの「Enjoy Chatting」から「Express Yourself」に向けて、スモールステップで様々な言語活動が設定されており、題材としては部活動や著名なスポーツ選手など、身近な話題や興味・関心の高い話題を設定するなどの工夫が見られる。<br>(2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、「Unit Goal」では、技能の明確な目標が示されると共に、目標に対する自己評価ができるような工夫がされている。Partごとに掲載されている「Enjoy Chatting」では、即興でのやりとりを促す工夫が見られる。<br>(3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、Unit後の「Project」では、自分の考えを整理し、言語活動を行った後、ペアやグループでお互いに助言したり議論したりする場面が設定されている工夫が見られる。 |

3　利便性の向上

〔観点３〕　学習効果や使用上の利便性を高めるとともに生徒にとって分かりやすいという視点から、どのような工夫が見られるか。

| 発　行　者 | 概　　評 |
|---|---|
| 2　東　書 | (1) 学習効果や使用上の利便性については、本文で使われている文が「Key Sentences」として同ページに掲載されているので、本文中の重要表現を確認しやすくなっており、「Round」1、2では、読解のポイントを絞って英文を読む活動が段階的に設定されていることで、生徒たちの読解力育成につながる工夫が見られる。<br>(2) 生徒にとっての分かりやすさについては、デジタルコンテンツに語句や本文の音声以外にも、クイズや「Key Sentences」を解説する動画、復習のためのアニメなどが収録されているので、生徒自身が既習事項を復習したり、表現活動をしたりする際のサポートになるような工夫が見られる。<br>(3) 学習者用デジタル教科書については、表示されたページ画面に触れるだけで内容ごとに拡大表示されるとともに、「書き込み」画面を開くと、「リンクの追加」ができる機能が備えられ、個別学習に必要なデジタル資料を収集できるなど、学習者に配慮した工夫が見られる。 |
| 9　開隆堂 | (1) 学習効果や使用上の利便性については、「Scenes for Basic Dialogs」で、導入→理解→自己表現の流れが同じアイコンで示され、学習が進めやすくなっている。また、各学年の「Our Project」の目標が示されているので、普段の学習から1年間の学習の見通しをもち、3年間の到達目標が分かる工夫が見られる。<br>(2) 生徒にとっての分かりやすさについては、「とびら」に、目標や単元を通して身に付けるべき表現が示されており、生徒自身が確認し、見通しをもちながら学習に取り組めるようになっている。また、各ページの欄外にProgramにおける学習の進度を示し、生徒の達成度が分かる工夫が見られる。<br>(3) 学習者用デジタル教科書については、本文のシートだけでなく「学習者支援」のシートが設定され、精選された情報が大きく表示されたり、「ワークスペース」のアイコンから四線ノート等を活用できたりするなど、学習者に配慮した工夫が見られる。 |

| | |
|---|---|
| 15　三省堂 | (1) 学習効果や使用上の利便性については、各Partの「Scene 1」に「Small Talk」が設けられ、単元のテーマや題材に関した身近な事柄について、ペアで即興のやり取りができる工夫が見られる。また、いずれの単元も基本文確認→本文理解→自己表現の流れになっており、1つの表現に特化して学習を進められる工夫が見られる。<br>(2) 生徒にとっての分かりやすさについては、小学校から中学校へスムーズな学びの接続が図られるように、英語学習のスタートとして、「サイコロトーク」やイラストなどが掲載されている。また、巻末資料は、基本文のまとめが一覧で見開きに掲載されており、復習や言語活動に役立つような工夫が見られる。<br>(3) 学習者用デジタル教科書については、表示画面に触れるだけで内容が拡大表示されるとともに、拡大した画面の左下には「New Words」のカードが表示され、クリックすると新出英単語が音声で読み上げられ、繰り返し学習できるなど、学習者に配慮した工夫が見られる。 |
| 17　教　出 | (1) 学習効果や使用上の利便性については、小学校で学んだ表現や「発信語」を確認して、復習や定着につながるよう見やすく掲載されている。また、基本文導入後の練習として、すぐに表現活動に入ることができるように「Tool Kit」が設けられ、イラストを参考にしながらスムーズに進められるような工夫が見られる。<br>(2) 生徒にとっての分かりやすさについては、Lesson毎に設定されている「Grammar」が、文法のまとめとなっていて、内容や見た目も工夫されている。さらに、「デジタルコンテンツ」には、学習シートや対話のやり取りの様子が分かる動画などがあり、生徒たちの学習サポートとなるような工夫が見られる。<br>(3) 学習者用デジタル教科書については、「W＆P（Words & Phrases）」から語句の学習ができるほか、画面右端に、「フラッシュカード」「思考ツール」など、多様な学習支援のアイコンが設けられ、自分の学習状況に応じて設定を変更できるなど、学習者に配慮した工夫が見られる。 |

| | |
|---|---|
| 38　光　村 | (1) 学習効果や使用上の利便性については、表現力を磨くことができるように、各Unitにおいて登場人物になりきってせりふを考える「You’re the Writer!」のコーナーや、即興的なやり取りをする力を身に付けるために様々な質問が提示されている「Let’s Talk!」を巻末資料として設けるなどの工夫が見られる。<br>(2) 生徒にとっての分かりやすさについては、「扉」に写真やイラストが多く掲載されており、これから学習する内容を想起させる工夫がある。また、巻末資料の「Active Words」には、会話に役立つ表現が豊富に掲載されており、表現活動の手助けとなるような工夫が見られる。<br>(3) 学習者用デジタル教科書については、画面操作のためのアイコンが平易な言葉で表示され、操作が分かりやすくなっているとともに、サポートのアイコンを開くと、「見やすさ」「読みやすさ」「使いやすさ」を自分で設定することができるなど、学習者に配慮した工夫が見られる。 |
| 61　啓林館 | (1) 学習効果や使用上の利便性については、巻末資料として基本文がUnit毎に見やすくまとめられており、確認や復習ができるようになっている。また、文法のまとめを取り扱った「Focus on Form」では、文法構造を示すことに加えてコミュニケーション活動が設けてあり、実際に練習をしながら習得できるような工夫が見られる。<br>(2) 生徒にとっての分かりやすさについては、活動に役立つ語彙や表現が、見やすい配列でWord Boxに掲載されている。また、Listen & Thinkのリスニング原稿が掲載されているので、確認や復習をする際に、原稿を見ながら、聞き取った内容を整理することができるような工夫が見られる。<br>(3) 学習者用デジタル教科書については、画面操作のアイコンについての説明を「？（ヘルプ）」で一覧できるとともに、「暗記ペン」「バインダー」等が設けられ、英単語の暗記や自分の考えをバインダーで追加することができるなど、学習者に配慮した工夫が見られる。 |

4　地域の願いや思い、生徒の実態等

〔観点４〕　家庭や地域と連携した学習の推進とともに、生徒の確実な基礎・基本の定着という観点から、どのような工夫が見られるか。

| 発　行　者 | 概　　評 |
|---|---|
| 2　東　書 | (1) 生徒の家庭学習を支援するために、QRコードによって新出文法事項の解説動画を見ることや、本文・語句ビューアーを使って音読練習を行うことで、自分に合った方法で楽しく学び、個別最適な学びの具現化につながる工夫が見られる。<br>(2) 生徒の確実な基礎・基本の定着のためにバックワードデザインで言語活動が設定され、扉ページに示されたゴール活動に向けて目標をもって、スモールステップで言語活動に取り組み習熟を図ることができるよう工夫されている。 |
| 9　開隆堂 | (1) 生徒の家庭学習を支援するために、QRコードからアクセスできる英語の音声や各種動画コンテンツ、また自らの学習の定着の確認を促す単語学習アプリが設定され、資料ページでは英単語をジャンル別にまとめるなど、生徒が学習を進める上で助けになる工夫が見られる。<br>(2) 生徒の確実な基礎・基本の定着のために、スパイラルな学習ができるよう Small Talk が配置され、「聞く」「話す（やり取り）」話したことを「書く」３つの活動で、新出表現の習熟が図られるように工夫されている。 |
| 15　三省堂 | (1) 生徒の家庭学習を支援するために、QR コードからアクセスできる文法事項の練習、確認問題、発音チェックによる音読練習が設定され、For Self-study では「学び方」を学ぶことで自律的な学習者を育て、Language Focus では復習につながる工夫がなされている。<br>(2) 生徒の確実な基礎・基本の定着のために単元末の Goal Activity に向けて Small Talk Plus で身近なことに引き寄せてやりとりと行い、内容やアイデアを考えて書くことにつなげることができるよう工夫されている。 |
| 17　教　出 | (1) 生徒の家庭学習を支援するために、自らの発音の確認や苦手な箇所を視覚的に把握できる Key Sentence(s)コンテンツや文法解説動画を収めた学習者デジタル教材がある。また、個別最適な学びをサポートできる「まなびリンク」が設定されるなどの工夫が見られる。<br>(2) 生徒の確実な基礎・基本の定着のために、各基本文の定着を目的とした置き替え練習のための Tool Kit が各 Part に設置されたり、各単元での振り返りや「話す・書く」活動を通じて、発表・共有することのできる Task で習熟が図られたりできるように工夫されている。 |
| 38　光　村 | (1) 生徒の家庭学習を支援するために、“英語の学び方ガイド”で家庭学習に関するアドバイスを掲載し、教科書を活用した学びをサポートしている。また、教科書中の活動で扱った TIPS をまとめ生徒が、いつでも振り返り、学びに生かすことのできる工夫がなされている。 |

| | |
|---|---|
| | (2)　生徒の確実な基礎・基本の定着のために各 Part においてページ左側のストーリーと、右側の活動とで「使用場面」「働き」が一致した基本文を繰り返し練習する工夫がなされている。また、「話したことを書く」活動で、書くことに慣れる工夫がなされている。 |
| 61　啓林館 | (1) 生徒の家庭学習を支援するために、語彙、音声、表現の観点から学習に役立つコツを示した「英語の学び方」や、家庭でも音声や動画を使って学習できるデジタルコンテンツがあり、個別最適な学びができるように、再生速度調整機能が設定されるなどの工夫が見られる。<br>(2) 生徒の確実な基礎・基本の定着のために、英語でどんなことを言いたいか、その使用場面や意味、文構造・文法をまとめて提示している Focus on Form が配置されている。また、知識・技能を確実に習得できるよう、スモールステップによる学習場面が設定されている。 |

令和７年度使用

# 中学校用教科用図書研究資料

道　　徳

令和６年７月

教科用図書南那珂採択地区協議会

1　教科目標の達成及び単元（題材）の構成・配列等

〔観点１〕　学習指導要領に示された道徳科の目標を達成するために、構成・配列等について、どのような工夫が見られるか。

| 発　行　者 | 概　　評 |
|---|---|
| 2　東　書 | (1) 道徳科の目標を達成するために、教材３つをユニット化して、「いじめのない世界へ」「いのちを考える」というまとまりを作り、全学年同じ時期に配置することで、指導に最適な時期に重点的な学びができるような構成・配列の工夫が見られる。 |
| 17　教　出 | (1) 道徳科の目標を達成するために、いじめ問題、共生や持続可能な社会の在り方、生命の尊さのテーマで、複数の教材とコラムを組み合わせて重層的にユニット化し、深い学びができるような構成・配列の工夫が見られる。 |
| 38　光　村 | (1) 道徳科の目標を達成するために、９つのテーマでゆるやかに全教材をユニット化し、異なる内容項目からテーマにアプローチすることで、多様な学びができるような構成・配列の工夫が見られる。 |
| 116　日　文 | (1) 道徳科の目標を達成するために、多様性の尊重と SDGｓに関わるテーマを教材ごとに設定し、一部を同じテーマでユニット化して年間で複数配置することで、現代的課題についての考えが深められるような構成・配列の工夫が見られる。 |
| 224　学　研 | (1) 道徳科の目標を達成するために、最重点テーマ「いのち」に関わる教材と「SDGｓ」「多様性」「キャリア」の３つのテーマのユニット学習を関連させることで、自他の命について広い視野で考えを深められるような構成・配列の工夫が見られる。 |
| 232　あか図 | (1) 道徳科の目標を達成するために、重要なテーマについては教材を連続させてユニット化し、各学年でユニット数やユニット内の教材数を変えることで、発達段階に応じた学びを深められるような構成・配列の工夫が見られる。 |

2　内容や指導の充実

〔観点２〕　主体的に自分との関わりで考えたり、多面的・多角的に考えたりできるような学習活動を展開するために、どのような工夫が見られるか。

| 発　行　者 | 概　　評 |
|---|---|
| 2　東　書 | (1) 主体的・対話的で深い学びができるように、「考えよう」「見つめよう」でテーマについて考えさせ、「ぐっと深める」という補助発問で更に深く考えさせるとともに、「探究の対話」では、哲学対話を取り入れる工夫が見られる。<br>(2) 多面的・多角的な考え方ができるように、見開きでのポスターやグラフなどを用いたビジュアル教材で想像を広げ、読むことが苦手な生徒からも異なる立場や視点から多様な考えを引き出すような工夫が見られる。 |
| 17　教　出 | (1) 主体的・対話的で深い学びができるように、「導入」の問いで生徒の日常と教材をつなぎ、「学びの道しるべ」の三つの問いで生徒の考えを引き出し、段階的に深めさせることができるような工夫が見られる。<br>(2) 多面的・多角的な考え方ができるように、複数の教材とコラムを組み合わせたユニットや、様々な立場に立って考えたことを教科書に書き込んで整理し、他者の考えと比べる言語活動により、問題の本質に迫るような工夫が見られる。 |
| 38　光　村 | (1) 主体的・対話的で深い学びができるように、「考えよう」では二つの問いで学びのテーマに迫り、「チャレンジ　問いを立てよう」では、生徒自らが問いをもち探究することができるような工夫が見られる。<br>(2) 多面的・多角的な考え方ができるように、「見方を変えて」では「考えよう」の発問とは切り口を変えた問いや呼びかけ、「つなげよう」では更に深めさせたいテーマを提示するような工夫が見られる。 |
| 116　日　文 | (1) 主体的・対話的で深い学びができるように、「考えてみよう」「自分に＋1」では発問を二つに精選し、ねらいを焦点化して考えを深めさせながら、「あすへのメッセージ」では生き方について自分自身を見つめ直すことができるような工夫が見られる。<br>(2) 多面的・多角的な考え方ができるように、「学びを深めよう」では問題解決的な学習や体験的な学習の流れと資料を提示し、生徒が話合い活動や役割演技を通して道徳的価値にせまるような工夫が見られる。 |

| | |
|---|---|
| 224　学　研 | (1) 主体的・対話的で深い学びができるように、「深めよう」を教材のあとに適宜配置し、考えを深めるステップ（見つけよう、考えよう、話し合おうなど）に沿った授業の流れを具体的に提示するという工夫が見られる。<br>(2) 多面的・多角的な考え方ができるように、「クローズアップ」では教材の内容項目に即した資料や異なる立場からの多様な意見及び関連情報などを扱い、教材を軸に考えさせるような工夫が見られる。 |
| 232　あか図 | (1) 主体的・対話的で深い学びができるように、教材の初めに、内容項目の記載をしないことで、生徒が先入観なく教材と出会うことができるようにし、最後に「自分との対話」で自分に問い直す発問を設けるような工夫が見られる。<br>(2) 多面的・多角的な考え方ができるように、「マイ・プラス」では、役割演技や話合いなどを取り入れて、生徒がいろいろな立場で想像したり考えたりできるような問いを設定する工夫が見られる。 |

3　利便性の向上

〔観点３〕　学習効果や使用上の利便性を高めるとともに生徒にとって分かりやすいという視点から、どのような工夫が見られるか。

| 発　行　者 | 概　　評 |
|---|---|
| 2　東　書 | (1) 学習効果や利便性については、巻頭に「道徳科の授業はこんな時間に」を設けることで、考え、議論する道徳を実現するための学習の流れが分かるように工夫がなされている。また、巻末の「心情円」を使用することで、すべての生徒が自分の気持ちや考えを簡単に表現でき、自己表現や話合いが苦手な生徒も授業に参加しやすくなるような工夫が見られる。<br>(2) 生徒にとっての分かりやすさについては、全学年で第１教材と連携した「学習の流れ」を設け「つぶやき」欄や「考えよう」「見つめよう」「ぐっと深める」の活用の方法を具体的に示すことで、学習の流れをつかみやすくなるような工夫が見られる。 |
| 17　教　出 | (1) 学習効果や利便性については、巻頭に「さあ、道徳を始めよう！」を設け、話合いを深めるためのポイントがつかめるような工夫がなされている。また、巻末の「よりよく生きる」ことについて、１年間の学習の集大成として表現する活動を取り入れることで、これまでの成長を実感し、これからの生き方について考えられるような工夫が見られる。<br>(2) 生徒にとっての分かりやすさについては、「学びの道しるべ」では、パターン化された３つの問いを考えることで、生徒が、常に道徳的価値について段階的に学びを深めることができるような工夫が見られる。 |
| 38　光　村 | (1) 学習効果や利便性については、巻頭に「道徳の学習を始めよう」を設け、３つのポイントを示し、道徳科を学ぶ心構えを意識することができるような工夫がなされている。また、最終教材「一年間の学びを振り返ろう」では、これまでの学びを振り返り、心の成長に気付くとともに、これからの生き方について考えることができるような工夫が見られる。<br>(2) 生徒にとっての分かりやすさについては、「考えよう」では学びのテーマを示し、テーマに迫るための二つの問いや発展的な問いを示すことで、生徒が１時間の学びの流れを見通しやすくするような工夫が見られる。 |

| | |
|---|---|
| 116　日　文 | (1) 学習効果や利便性については、巻頭に「道徳科での学びを始めよう！」や「ミニ教材で考えてみよう」で設けることで、学びの見通しがもてるような工夫がなされている。また、別冊「道徳ノート」を併用することで、生徒自身が考えを記録し積み上げ、振り返ることで成長を実感できるような工夫が見られる。<br>(2) 生徒にとっての分かりやすさについては、学びのキーワード、ねらいに迫る発問、授業後の学びを活かす発問の３つの学習要素を全教材で設けることで、学習の流れをつかみやすくするような工夫が見られる。 |
| 224　学　研 | (1) 学習効果や利便性については、巻頭「道徳科で学ぶこと考えること」の中で、思考ツールの使い方やＩＣＴの活用の方法を設けており、関連する資料を自分で調べたり考えを整理したりすることで、生徒が自ら関心を持って道徳の学びに向き合うための工夫がなされている。<br>(2) 生徒にとっての分かりやすさについては、各学年の第１教材には「深めよう」を必ず設け、考えを深める４つのステップを示すことで、生徒が最初の授業で基本的な流れをつかみやすくするような工夫が見られる。 |
| 232　あか図 | (1) 学習効果や利便性については、第１教材「道徳　はじまりの時間」を設け、どのようなことを学んでいくのかが分かるような工夫がなされている。また、巻末にワークシート「学習の記録」を設けることで、学期ごと及び１年間の学習の振り返りができるような工夫が見られる。<br>(2) 生徒にとっての分かりやすさについては、考える道すじ、学習活動がイメージできる発問、自分との対話の授業のねらいを明確にした３つの発問を全ての教材で設定することで、生徒が見通しをもちやすくするような工夫が見られる。 |

4　地域の願いや思い、生徒の実態等

〔観点４〕　地域の願いや思いを基盤とした学習を推進するとともに、生徒の道徳性を養うという観点から、どのような工夫が見られるか。

| 発　行　者 | 概　　評 |
|---|---|
| 2　東　書 | （１）家庭や地域との連携については、学習内容として、自分の地域の伝統行事について考えさせる場面が設定されており、地域に対する愛情を育むことができるような工夫がみられる。<br>（２）未来に夢や希望をもつためには、学習内容として、仕事のおもしろさや働く意義を考えさせる場面が設定されており、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うことができるように工夫されている。 |
| 17　教　出 | （１）家庭や地域との連携については、学習内容として、自分の地域の伝統行事について考えさせる場面が設定されており、伝統と文化を尊重し、地域を愛する態度を養うことができるような工夫がみられる。<br>（２）未来に夢や希望をもつためには、学習内容として、自分の夢を追い続ける生き方について考えさせる場面が設定されており、生きていく社会で、自立していく力を育ませることができるように工夫されている。 |
| 38　光　村 | （１）家庭や地域との連携については、学習内容として、自分の地域の伝統行事について考えさせる場面が設定されており、地域の願いや思いを基盤とした学習ができるような工夫がみられる。<br>（２）未来に夢や希望をもつためには、学習内容として、自分の生き方や進路を考えさせる場面が設定されており、主体的に社会の形成に参画し、その大切さに気付くことができるように工夫されている。 |
| 116　日　文 | （１）家庭や地域との連携については、学習内容として、自分の地域の伝統文化について考えさせる場面が設定されており、地域の伝統文化に対するよりよい向き合い方を育むことができるような工夫がみられる。<br>（２）未来に夢や希望をもつためには、学習内容として、様々な職業の人を取り上げ、仕事のやりがいを考えさせられる場面が設定されており、勤労の尊さや、その大切さに気付くことができるように工夫されている。 |

| | |
|---|---|
| 224　学　研 | （１）家庭や地域との連携については、学習内容として、自分の地域の人たちのよさについて考えさせる場面が設定されており、地域の人とのよりよい関わり方を促すことができるような工夫がみられる。<br>（２）未来に夢や希望をもつためには、学習内容として、個性を伸ばし、充実した生き方について考えさせられる場面が設定されており、多様性を尊重する社会で、自分らしく生きる態度を育成できるように工夫されている。 |
| 232　あか図 | （１）家庭や地域との連携については、学習内容として、自分の地域の伝統行事について考えさせる場面が設定されており、地域の一員としての自覚を促す学習ができるような工夫がみられる。<br>（２）未来に夢や希望をもつためには、学習内容として、様々な人の生き方に触れ、自分の将来を見つめ、考える場面が設定されており、自分の将来について多面的に考える態度を育てることができるように工夫されている。 |